

平成25年度

シ ラ バ ス

桐生大学 医療保健学部

看護学科

平成23年度以前カリキュラム…【3・4年生】

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	哲学・倫理学		<b>担当者</b>	金山昭夫	<b>学科</b>	看護学科 栄養学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	学部共通科目	選択	<b>単位</b>	2単位	<b>学年</b>	4学年	<b>曜日</b>	水
			<b>(時間)</b>	(30時間)			<b>時限</b>	1
<b>授業の概要</b>	難しい哲学論争ではなく、ごく身近な問いに哲学・倫理学的意味を見いだす。哲学・倫理学の基礎的な問題について、教科書を中心にそれぞれの議論を勧める一方、一般論では、判断の難しい、実践倫理のケースを取り上げて議論する。							
<b>学習目的</b>	哲学・倫理学の基礎的な考え方を応用して、身近な問題を議論することで、「ココロが軽くなる哲学・倫理学」を目標とする							
<b>学習目標</b>	学問としての哲学・倫理学的基礎を理解し、さらに、社会における倫理的な問題についてその実践的適用ができることを目指す。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	哲学と倫理学の基礎的課題	哲学・倫理とは何か、本講義で考察する問題の概略						
第2回	存在論	なぜ私たちは生きているのか						
第3回	哲学の定義	哲学とは何でないか						
第4回	哲学の問い	身の周りの謎を探して、問いを立ててみる						
第5回	哲学の意義	哲学は何の役に立つか						
第6回	哲学・倫理学者とは？	誰もが哲学・倫理学者であることに気づく						
第7回	西洋哲学・倫理学	なぜ、西洋哲学・倫理学のみが問題とされるのか						
第8回	哲学の難解さ	なぜ、哲学書は難解なのか？						
第9回	哲学から倫理学へ	哲学から倫理学へ、さらに実践倫理学への跳躍						
第10回	ケース・スタディ(1)	内部告発における倫理的問題						
第11回	ケース・スタディ(2)	セルフコントロールについて考える						
第12回	ケーススタディ(3)	地域医療におけるディレンマについて考える						
第13回	ケーススタディ(4)	判断能力の判定 (competence) 問題について考える						
第14回	ケーススタディ(5)	状況と倫理の問題について考える 正しい嘘はあるか						
第15回	社会実践における哲学・倫理学	哲学・倫理の問題と社会での問題の関係について考える						
<b>教科書</b>	中島義道、『哲学の教科書』、1995年							
<b>参考書</b>	関正勝、『生命倫理』、聖公会出版、1998年							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験 (80%)、授業での発言参加状況(20%)で総合的に評価する。							
<b>履修のポイント</b>	授業では、自らが積極的に問題を考察し、疑問点や意見を発言することが求められる。							
<b>オフィス・アワー</b>								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	国際文化論		<b>担当者</b>	小島弘一	<b>学科</b>	栄養学・看護学科	<b>開講期</b>	後期	
<b>区分</b>	学部共通科目	選択	<b>単位</b>	2	<b>学年</b>	4年	<b>曜日</b>		
			<b>(時間)</b>	30			<b>時限</b>		
<b>授業の概要</b>	<p>世界に存在する言語の数だけ文化は存在します。文化は各言語ごとに異なっているからです。国際的交流の機会が多くなったと言われている現代、外国の人々と交流する折に、文化が分からなくて誤解を生じることも少なくありません。国際的に文化を学び、相互の理解を深めようではありませんか。現在、世界中に紛争地域が多発しています。紛争の大半が宗教に起因しています。文化に大きく影響を与えている宗教を学ぶことで、紛争を減らし、相互理解を深めようと思います。世界の30%の人々が一つの宗教を信じています。これらの宗教を、世界各地に存在する文化遺産の研究を通じて学んでゆきます。</p>								
<b>学習目的</b>									
<b>学習目標</b>	<p>文化遺産の研究から、相互理解への道を探り、互いを理解することが容易になるでしょう。看護の道sを目指す人は、患者の声を聞くことが出来るでしょう。栄養科に進む人は、世界各国の料理の研究にも役立つでしょうし、外国旅行も容易になりましょう。文化を学んで、互いを理解し合い、平和な世界を構築できる様になることを目指します。</p>								
<b>授 業 計 画</b>									
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>		
第1回	文化と文明	文化の起源							
第2回	4大文明	何故文明は大河に生まれたか							
第3回	神話								
第4回	宗教の起源								
第5回	3大宗教	キリスト教・イスラム教・ユダヤ教							
第6回	ギリシャ文明	ギリシャ神話							
第7回	どのようにして文化は伝播した								
第8回	世界で最初の世界遺産								
第9回	いしよの	エジプト							
第10回	旧約聖書								
第11回	地中海文明の伝播								
第12回	食の禁祕								
第13回	小麦の栽培								
第14回	飼育								
第15回	村の成立	階級社会							
<b>教科書</b>	プリント配布								
<b>参考書</b>	文化人類学・世界遺産								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上								
<b>履修のポイント</b>	VTRやスライド								
<b>オフィス・アワー</b>	出講日								

平成25年度 シラバス

科目名	環境論		担当者	橋爪博幸	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	教養科目	選択	単位 (時間)	2単位 (30時間)	学年	4学年	曜日 時限	
授業の概要	今この地球で問題となっている種々の環境問題を取りあげて講義する。							
教育目的	これからますますクローズアップされてくる地球環境問題について、すこしでも地球環境の現状への興味をかきたて、これから社会にでたあとでも環境に配慮した生活ができるようにする。							
教育目標	授業の9割以上に出席することを目標とする。							
講義計画								
回	主 題		内 容					
第1回	大気汚染 (1)		中国から日本へ渡ってくるの大気汚染物質について知る。大気汚染の原因となる物質について理解する。					
第2回	大気汚染 (2)		過去に起こった大気汚染による公害問題を知る。また、これに関連して、大気汚染についてどんな法律があるのかを見ていく。					
第3回	原子力発電所からの放射能汚染 (環境被害)		2011年3月の東日本大震災では多くの人命が失われ、同時に福島原子力発電所の事故で放射能汚染が広がった。どのような環境汚染がひろがったか、その概略をみていく。					
第4回	放射能の被害について (人体への被害)		放射能や放射性物質について知り、大気、水 (海)、土壌の放射能汚染、そして私たちの健康への影響について情報を整理し、同時にエネルギー問題について考える。					
第5回	地球温暖化と京都議定書		地球の温暖化のしくみを理解し、京都議定書の内容をつかむ。					
第6回	温暖化進行後の地球の予測		IPCCの報告書を読み、これからの地球でどのようなことが起こると予想されているかをつかむ。					
第7回	生態系		生態系という概念を理解する。					
第8回	日本列島の自然環境		日本列島の自然環境について見ていく。					
第9回	廃棄物問題 (1)		増え続けるゴミの問題について各自、解決策を探る。					
第10回	廃棄物問題 (2)		廃棄物に関する法律にはどのような決まりがあるのか理解する。					
第11回	エネルギー問題		電気やガス、ガソリンといったエネルギー源の消費推移等を知る。電気料金の計算方法を学ぶ。					
第12回	エコロジカルフットプリント		エコロジカルフットプリントという概念を知る。同時に世界における貧困の現状、不平等や格差があることを知る。					
第13回	世界の不平等と環境破壊		貧困や不平等が、世界規模の環境破壊、生態系の喪失を招いていることを理解する。					
第14回	土壌の汚染		工業立地等における土壌汚染について見ていく。					
第15回	水質汚染		海や河川における汚れについて現状をつかむ。世界における水不足についても触れる。					
教科書	岡本博司『環境科学の基礎』第2版 (東京電気大学出版局)							
参考書								
成績評価	課題の提出、期末試験をもとに総合的に評価する。60点以上で単位として認定する。							
履修のポイント	休まず出席すること。レポート課題をかならず提出すること。							
オフィスアワー								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	生活とデザイン		<b>担当者</b>	松村	<b>学科</b>	看護学科・栄養学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	学部共通科目	選択	<b>単位 (時間)</b>	2単位 (30時間)	<b>学年</b>	4年生	<b>曜日</b>	
							<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	現代社会の中で生きている私たちは、非常に多くのデザインに囲まれて生活しており、そこから実に大きな影響を受けています。デザインと私たちの生活は、切り離す事ができない位に密接な関係があり、文明や文化が華開く以前からそうした関係は成り立っています。近代になりグラフィック・デザインやインダストリアル・デザインの分野が確立され、私たちの生活とデザインとの関係について考察していきたいと思います。							
<b>学習目的</b>	日常生活の中に普通に存在している「デザイン」について、その意味や歴史、価値、可能性等を多角的に学んで行く。学習の中でデザインに関する理解を深め、将来の自分たちの仕事や職場環境とデザインとの関係性、関連性を具体的に認識して行く。							
<b>学習目標</b>	<input type="checkbox"/> デザインの意味についての把握 <input type="checkbox"/> 様々なデザインの歴史についての認識 <input type="checkbox"/> デザインと色彩との関わりについて <input type="checkbox"/> デザインと人間工学についての理解							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	オリエンテーション	デザインを理解するために						
第2回	デザインの歴史①	イギリスの伝統と革新、アール・ヌーヴォーの世界						
第3回	デザインの歴史②	ウィーンの風土、市民生活のグラフィック・デザイン						
第4回	デザインの歴史③	バウハウスー芸術と技術の統一						
第5回	デザインの歴史④	オランダの近代運動、ロシアのユートピア						
第6回	デザインの歴史⑤	アメリカのインダストリアル・デザイン						
第7回	デザインの歴史⑥	現代のデザイン						
第8回	デザインと人間工学①	人体寸法と設計						
第9回	デザインと人間工学②	家具、設備への応用<座る>						
第10回	デザインと人間工学③	家具、設備への応用<寝る>						
第11回	デザインと人間工学④	家具、設備への応用<立つ>						
第12回	デザインと人間工学⑤	形・色・テクスチャーの心理						
第13回	デザインと人間工学⑥	錯視効果						
第14回	デザインと人間工学⑦	空間の心理						
第15回	まとめ	授業内容まとめ・小テスト						
<b>教科書</b>	使用しない							
<b>参考書</b>	使用しない							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 ※「ノート提出」及び「小テスト」等により評価を行う。							
<b>履修のポイント</b>	授業態度、出席状況等も重視する。							
<b>オフィス・アワー</b>	基本的に開いている時間は、いつでも可。							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	地域社会学		<b>担当者</b>	篠原貴子	<b>学科</b>	看護学科 栄養学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	学部共通科目	選択	<b>単位</b>	2単位	<b>学年</b>	4学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(30時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	近代社会は、社会構造や生活様式に大きな変化をもたらした。特に、農村から都市への人口流出や都市化は、コミュニティや個人を取り巻く環境を転換させた。本講義では、都市や農村に関する社会学の展開を中心に学ぶとともに、社会を構成する主要な組織が担う役割や課題を経済や文化の側面から把握する。							
<b>学習目的</b>	地域社会学の歴史や課題を理解し、社会学的思考を身に付ける。							
<b>学習目標</b>	講義内容を踏まえて、地域社会が抱える現代的課題を発見し、読み解く力を培う。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	イントロダクション	地域社会学の意義と課題						
第2回	都市社会学の系譜	都市社会学の展開						
第3回	流動型社会論	近代化論						
第4回	現代の都市社会	都市空間と人間形成						
第5回	現代の農村社会	高度経済成長と農村社会						
第6回	地域権力構造論	地域と政治						
第7回	アーバンイズムとコミュニティ	町内会の変遷と課題						
第8回	アーバンイズムとローカリティ	東京の都市空間						
第9回	グローバル社会	グローバル化と地域社会の変貌						
第10回	エスニック・コミュニティ	エスニック・コミュニティの形成						
第11回	社会変動と地域社会の形成	住民生活と行政						
第12回	農山村の混住化社会	現代の農村社会						
第13回	地域社会の活性化	地域の復興と観光						
第14回	コミュニティ形成の課題	新たなコミュニティの創出と地域社会						
第15回	まとめ	地域社会学の展望						
<b>教科書</b>	なし（随時配布）							
<b>参考書</b>	鈴木広監修 『地域社会学の現在』（ミネルヴァ書房）							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。							
<b>履修のポイント</b>								
<b>オフィス・アワー</b>								

平成25年度 シラバス

科目名	文献検索とクリティーク		担当者	HTC マチャコン	学科	看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 30時間	学年	3年	曜日 時限	
授業の概要	科学論文の検索方法について理解し、実践し、実際の論文を例にとり、論文の背景や目的、研究方法、結果、考察などの記述の仕方を学ぶ。さらに論文に対する批評的な読解法についても学習する。							
学習目的	科学論文の検索方法を習得し、研究プロセスの基礎を学び、研究計画を立案する基礎的能力を修得する。さらに研究論文に対する批評的な読解法を学び、文献クリティークの基礎能力を養う。							
学習目標	1. 情報・文献検索ができる。 2. 論文のクリティークを行うことができる。 3. 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション		授業の進め方、インターネットに関する基礎知識					
第2回	情報検索1		情報とは何か、 インターネットで情報検索 (サーチエンジンによる情報検索)					
第3回	文献検索1		文献とは何か、論文調査の進め方					
第4回	文献検索2		単行書・学術雑誌・学術論文の構成					
第5回	文献検索3 (和文編)		国内の電子ジャーナル：医学中央雑誌Web版、JDreamII データベース：メディカルオンライン					
第6回	文献検索4 (欧文編)		外国の電子ジャーナル：Ovid Journals (American Journal of Nursing、 Nursing Research), Health & Wellness データベース：Ovid Database (BNI, Manual of Nursing Practice)					
第7回	科学研究序論		研究の種類、研究のプロセス、研究計画					
第8回	科学研究のクリティーク		クリティークとは何か					
第9回	グループワーク1		研究論文のクリティーク1 国内のジャーナルから原著論文(和文)のクリティーク					
第10回	グループワーク2		研究論文のクリティーク2 外国のジャーナルから原著論文(英文)のクリティーク					
第11回	グループワーク3		研究論文のクリティーク3					
第12回	グループワーク4		研究論文のクリティーク4					
第13回	グループワーク5		研究論文のクリティーク5					
第14回	グループワーク6		課題のプレゼンテーション					
第15回	グループワーク7		課題のプレゼンテーション					
教科書	看護研究のための文献検索ガイド 第4版 増補版 第3刷発行 (日本看護協会出版会) ISBN-13: 978-4818014985							
参考書	1. インターネットで文献検索、JLA図書館実践シリーズ、日本図書館協会 2. 学術情報文献マニュアル、丸善(株)							
成績評価	単位認定	60	点以上	課題(40%)、グループワーク・プレゼンテーション(60%) *定期試験を実施しない。 **再試験を実施しない。				
履修のポイント	演習時間外での活用が必要である。							
オフィス・アワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡を入れること。 E-mail: mach.dr@gmail.com 研究室：9号館3F、第12研究室(情報環境研究室)							

平成25年度 シラバス

科目名	チーム医療論		担当者	加 固 正 子 (6回) 内 田 真 理 子 (5回) 林 圭 子 (4回)	学科	看護学科、栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	今日の医療提供の対象は、拡大し、医療ニーズも多様化している。そのニーズに対応したより良質なサービスを提供するためには、医療・保健・福祉などの多様な専門職による役割と機能の有機的な連携や協働が必要不可欠である。本授業では、チーム医療の歴史的背景を振り返り、医療・保健・福祉の場で展開されているチームアプローチの理論と実際について学習する(オムニバス方式全15回)。							
学習目的	チーム医療のあり方や協働の実際などを通し、医療・保健・福祉といった領域の各専門職種への役割、機能、責任を理解し、より良質なサービス提供を目指すチーム医療実現のための知識を習得する。							
学習目標	1. チーム医療の背景、あり方、倫理といった基本的な知識を習得する 2. 各専門職に対する理解を深めるとともに、チーム構成員の役割、機能、責任を理解する 3. チームにおける情報の伝達やコミュニケーションの重要性を理解する 4. 協働の実際を知り、課題への取り組み方や効果的で円滑なチーム医療を展開する方法を考察する							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	チーム医療とは何か		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療の歴史的過程</li> <li>・チーム医療の志向性による要素分類とそれらの要素の関係性</li> <li>・チーム医療の論理</li> </ul>			加 固		
第2回	チーム医療における患者医療者関係		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの形態別分類</li> <li>・チームの構成員とその役割</li> <li>・阻害要因と改善に向けてのアプローチ</li> </ul>			加 固		
第3回	チーム医療の倫理		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療の倫理性</li> <li>・チーム構成員のあり方とコミュニケーション</li> <li>・チームとインフォームドコンセント</li> </ul>			加 固		
第4回	<チーム医療の実際>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション過程とチーム医療</li> <li>・リハビリテーションに関わる職種の理解</li> </ul>			加 固		
第5回	1. 小児医療におけるチーム医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児医療に関わる職種とチーム医療の実際</li> <li>・療養型小児医療施設におけるチーム</li> </ul>			加 固		
第6回	2. 栄養指導とチーム医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病療養指導におけるチーム医療</li> <li>・褥瘡ケアにおけるチーム医療</li> </ul>			林 圭 子		
第7回	3. パスを用いた連携の取り方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティカルパスを用いたチーム医療、病院と地域連携</li> </ul>			林 圭 子		
第8回	4. 高度医療提供とチーム医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度医療提供施設におけるチーム医療</li> <li>・高度医療と看護師の役割拡大</li> </ul>			林 圭 子		
第9回	5. 回復期のチーム医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳梗塞発症後の回復過程におけるチーム連携</li> </ul>			林 圭 子		
第10回	6. 在宅におけるチーム医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅におけるチーム医療の実際</li> </ul>			内 田		
第11回	7. 地域看護とチーム医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉や保健との連携</li> </ul>			内 田		
第12回	地域におけるチーム医療の検討(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討グループワーク (オリエンテーション)</li> <li>・複数の専門領域によるディスカッション</li> </ul>			内 田・加 固・林 (GW)		
第13回	地域におけるチーム医療の検討(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討グループワーク</li> <li>・複数の専門領域によるディスカッション</li> </ul>			内 田・加 固・林 (GW)		
第14回	地域におけるチーム医療の検討(3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討グループワーク 発表</li> <li>・チームで協働することからの気づき</li> </ul>			内 田・加 固・林 (GW)		
第15回	チーム医療の展望		<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者中心のチーム医療をめざして</li> <li>・情報の共有と医療過誤の低減</li> </ul>			加 固		
教科書	鷹野和美編著、『チーム医療論』、医師薬出版株式会社、2008							
参考書	授業の中で各種資料を配布する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席、授業中の発表状況、レポートによる。							
履修のポイント	患者を中心とした良質な医療サービスを提供するためにはチームによる協働は必要不可欠である							
オフィス・アワー	研究室にいる場合、いつでも。							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	生命科学		<b>担当者</b>	小林	<b>学科</b>	栄養・看護(共通)	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門基礎科目	選択	<b>単位</b>	1	<b>学年</b>	4	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	15時間			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	<p>生をうけて死に至るまで続けられる生命の営みを科学の眼でみつめ理解する。この数十年で生命科学は飛躍的に発展し、生命の持つ高度で複雑なシステムの一部が理解されるようになった。バクテリアからヒトまでに共通して存在する生命の原理と、今日まで営々と生命が受け継がれてきた方法を知るとともに、ヒトとしての生命をよりよく生かすために最新の科学技術がどのように用いられ、今後どのような進歩が期待されるのかを考える。</p>							
<b>学習目的</b>	<p>ニュースで流れる生命科学の内容を理解し、現代の医療へのかかわりを理解する。生命科学という観点から、生化学をもう一度見直し、生化学の基礎も学習する。</p>							
<b>学習目標</b>	<p>管理栄養士国家試験では、人体と構造と機能及び疾患の成り立ちの分野に生化学は含まれる。生化学は基礎栄養学・応用栄養学などの分野の理解にも必要であり、これらの科目にも生化学の問題は含まれる。生化学I・IIを基礎に、めざましく進展する分子生物学・細胞生物学の内容も理解する。</p>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	細胞内情報伝達	ホルモン及びその関連物質						
第2回	器官の生化学	腎臓・肝臓の生化学						
第3回	器官の生化学	筋肉、脂肪組織の生化学						
第4回	器官の生化学	脳の生化学						
第5回	遺伝の生化学	遺伝子の生化学						
第6回	遺伝の生化学	遺伝子操作法						
第7回	細胞増殖の生化学	細胞増殖、死の調節						
第8回	まとめ	各臓器の生化学反応を総合的にまとめる。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	シンプル生化学							
<b>参考書</b>	生化学ノート、生化学テキスト							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 時間内のテスト・レポートにより評価							
<b>履修のポイント</b>	管理栄養士国家試験問題過去問題を中心に解き、生化学 I・II を理解すると共に、進展する分子生物学・細胞生物学を理解につなげる。理解度によりシラバスを変更する。							
<b>オフィス・アワー</b>								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	行動科学		<b>担当者</b>	徐 淑子	<b>学科</b>	看護学科 栄養学科	<b>開講期</b>	後期	
<b>区分</b>	専門基礎科目	選択	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	4学年	<b>曜日</b>		
			<b>(時間)</b>	(15時間)			<b>時限</b>		
<b>授業の概要</b>	この授業では、人々が健康を守る行動を起こすときにどんな心理社会的仕組みが働いているのかについて、学びます。また、それらの知識を健康教育や患者教育にどのように応用できるかについて、考えます。まずは、じぶん自身の行動をモデルに当てはめて考えてみることから学習を始めましょう。								
<b>学習目的</b>	行動モデルの発想を、保健医療の現場で生かすための、基礎をつくることを目的とします。								
<b>学習目標</b>	1. 「健康と病気」をめぐる行動のさまざまなすがたについて、理解を深める 2. 行動モデルを用いて、身近な健康現象を理解・説明することができるようになる								
<b>授 業 計 画</b>									
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>		
第1回	保健行動の多様性 1	健康と病気にかかわるさまざまな行動を、いくつかの視点で分類しながら理解する。看護職者がとりあつかうケア範囲の広さを確認する。							
第2回	保健行動の多様性 2	生活構造論、段階的変遷理論について取り上げ、保健行動がどのようにして個人の生活の中に組み込まれていくのかについて考える。							
第3回	保健行動の生起とその習慣化 1	保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する。①教育モデル ②恐怖アピールモデル ③保健信念モデル ④保健行動シーソーモデル							
第4回	保健行動の生起とその習慣化 2								
第5回	保健行動の生起とその習慣化 3	社会的学習理論（自己効力感モデル）の考え方より、行動変容の過程について考える。							
第6回	精神健康が保健行動に与える影響	生活ストレス論の立場から、「なぜ、かんたんな保健行動も起こせない／続かない人がいるのか」について、考える。							
第7回	行動科学的な知見の応用 1 (生活習慣指導への応用)	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、事例に学びながら理解を得る。 ①認知行動療法の基本的な考え方 ②認知行動療法の考え方を援助内容にとりいれる							
第8回	行動科学的な知見の応用 2 (生活習慣指導への応用)								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
<b>教科書</b>	指定教科書はありません。教員が資料を配布します。								
<b>参考書</b>	授業中に、その都度、情報の出典を示し、書籍や文献を紹介さしあげます。								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 課題提出80%以上で評価								
<b>履修のポイント</b>	授業中に個別ワークにとりくんでもらいます。また、視聴覚資料を毎回視聴します。私語厳禁でお願いいたします。								
<b>オフィス・アワー</b>									

# 平成25年度 シラバス

科目名	合同臨地実習		担当者	中山優子・加固正子他	学科	栄養学科 看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(45時間)			時限	
<b>授業の概要</b>	専攻が異なる栄養学科・看護学科の学生が互いの交流を通して連帯感を培い、チームで様々な保健・医療・福祉・地域の現場において、問題発見方学習活動を体験し、体験後全体報告会と討論会を開催する。							
<b>学習目的</b>	専攻の異なる学生間に相互理解や認識の共有を促進し、保健医療分野の「連携と協働」に対する理解を深める。また、チーム医療の実際を通じて、今後のチーム医療の在り方を考える。							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門職連携の実践に必要な多職種とのコミュニケーション能力を適用する</li> <li>2. 保健医療福祉サービスのかかわる職種や役割とそれを支える制度について理解する</li> <li>3. 個人・集団・地域の健康上の問題を解決するための保健医療福祉チームの連携・協働の実際を知る</li> <li>4. 対象者中心の保健医療福祉サービスをチームとして提供し、専門職として連携することの必要性および重要性を理解する</li> <li>5. 保健医療福祉チームの連携・協働を推進する方法と課題をあげる</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	グループ作り						
第2回	}	臨地実習にむけての事前学習						
第3回		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">                     詳細については、配布する「合同臨地実習要項」に記載してあります                 </div>						
第4回								
第5回							グループワーク	
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回		}	病院、福祉施設、保健行政機関等での臨地実習					
第12回	臨地実習							
第13回								
第14回	発表準備	学内合同報告会の準備、報告書作成						
第15回	学内合同報告会	実習で学んだことを全グループが発表する						
<b>教科書</b>	指定なし							
<b>参考書</b>	鷹野和美編著：チーム医療論、医歯薬出版株式会社（3年次の「チーム医療論」で使用した教科書）							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 臨地実習への出席が原則							
<b>履修のポイント</b>	グループワークと臨地実習、報告会で構成されており、実習前の学習が重要になります。また、学生同士のチームワークをいかに円滑に行うかについて、客観的に考察しながらグループワークを行うようにしましょう。							
<b>オフィス・アワー</b>	各グループの担当教員と相談して決定する。							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	養護概論		<b>担当者</b>	青柳 千春	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	専門基礎科目	選択	<b>単位</b> <b>(時間)</b>	2単位 (30時間)	<b>学年</b>	3学年	<b>曜日</b>	
	教職科目	(必修)		<b>時限</b>				
<b>授業の概要</b>	教育職員免許法に示された「養護概説」の趣旨に基づき「養護」の本質や概念、歴史的沿革、職務内容の変遷、養護教諭の職務内容などの養護教諭の『職』について学ぶ。							
<b>学習目的</b>	学校保健を推進する中核的役割をもつ養護教諭の職務と機能、役割を理解し、児童生徒の健康問題の解決方法と技術について、専門的・実践的に学習する。							
<b>学習目標</b>	①「養護」の本質や概念、沿革、職務内容の変遷を理解する。 ②児童生徒の健康問題を解決するための、学校保健活動の在り方を理解する。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	教育関係法令と教育行政	教育関係法令等、教育行政、教育改革の動向						
第2回	学校教育と学校保健	教育の目的、学校経営とは、教育課程と学習指導要領、学校保健						
第3回	養護教諭制度の沿革	養護教諭制度の変遷、養護教諭の免許制度、職業倫理						
第4回	養護教諭の職務	児童生徒の健康問題と養護教諭の職務内容の変遷						
第5回	児童生徒の発育発達と健康課題	幼児期、児童期、青年前期・後期の発育発達 子どもの健康課題の推移						
第6回	学校における救急処置	学校における救急処置の目的 適切な見極めと判断 救急体制づくり						
第7回	健康診断の計画と実施	健康診断の意義と目的、計画の立て方と実施の流れ						
第8回	健康観察と疾病管理	健康観察の目的、機会と内容 疾病管理の目的と内容及び留意点						
第9回	学校における精神保健と養護教諭の役割	子どもの心の問題の内容 対応にあたっての留意点と養護教諭の役割						
第10回	学校環境衛生	学校環境衛生の目的 関係法令 日常点検と措置						
第11回	保健教育	教科保健（保健学習）と保健指導のねらい、内容、進め方						
第12回	健康相談	健康相談の意義・法的根拠と進め方						
第13回	保健室経営と組織活動	保健室経営の考え方と保健室経営計画の作成 学校における保健組織						
第14回	安全管理と危機管理	学校安全とは、安全教育と安全管理の進め方						
第15回	まとめ	ヘルスプロモーションスクールと養護教諭の新たな役割						
<b>教科書</b>	「新養護概説〈第7版〉」采女智津江 少年写真新聞社							
<b>参考書</b>	「養護概説」 三木とみ子 ぎょうせい							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験の成績が主 課題研究、レポート成績を加える							
<b>履修のポイント</b>	授業は学び方のヒントである。養護教諭の根本となる基礎基本であるので、復習予習をして授業に望むこと。							
<b>オフィス・アワー</b>	アポイントを取ることに。							

## 平成25年度 シラバス

科目名	社会保障論		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護学科教育課程において「社会保障制度と生活者の健康」の中でも「社会保障の理念と基本的な制度の考え方」を理解するのがこのコースである。ここでは、疾病・高齢・要介護・失業などの危機に対応する医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険などの公的保険制度と理念、さらには生活保護、障害者福祉、児童福祉、老人福祉などの社会福祉諸法の制度と理念が、福祉・医療制度の中で、また私たちの生活の中でどのような機能を果たしているかを考えていく。このコースでは、看護職として不可欠な知識を得るだけでなく、生活者として知っておくべきことがらについても学習していく。							
学習目的	医療保健職として必要な社会保障の理念と社会保障の基本的制度の考え方等を理解する。							
学習目標	現在の社会保障制度の枠組み、現実の社会保障に関するしゅみを理解する。社会保障制度に対する、医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	社会保障制度と社会福祉 社会福祉の歴史		社会保障の概念・目的について理解した後、社会保障の概要・法制度について学習する。また、現在までの社会福祉の歴史について、いくつかの段階に分けて、その概要を学習する。					
第2回	現代社会の変化と社会保障・ 社会福祉の動向		現代の社会保障を取り巻く環境の変化について学習し、それに対する社会福祉政策の近年の動向と社会福祉の現状について学習する。					
第3回	医療保障		わが国の医療制度の沿革・特徴について学習し、また医療保険の種類を正しく理解する。それぞれの医療保険の特徴・内容を知り、また高齢者医療制度について学習する。					
第4回	介護保障		介護保険制度が創設された背景と現在までの沿革を学習する。また、介護保険制度の概要やしゅみ、現状について学習し、さらに課題について学習する。					
第5回	所得保障		所得保障制度の概要について学習する。具体的な所得保障制度の中心である年金保険制度について沿革・具体的内容及び課題を学習した後、各種社会手当、労働保険制度のしゅみ・内容について概観する。					
第6回	公的扶助		社会保障制度における公的扶助の位置づけを理解し、生活保護制度を中心にその概要と具体的内容を学習する。公的扶助の現代の課題と生活保護以外の低所得層対策について学習する。					
第7回	社会福祉の分野とサービス		対象者別の社会福祉サービスについて学習する。高齢者・障害者・児童家庭に対する福祉の概要と具体的内容について理解し、またそれらの福祉分野において、近年特に問題となっている課題について学習する。					
第8回	社会福祉実践と医療・看護		社会福祉の援助技術についてその概要を知り、また社会福祉援助者と他の保健医療職者との連携・協働について学習する。					
教科書	福田素生・他著『<<系統看護学講座 専門基礎分野>> 健康支援と社会保障制度[3]社会福祉』（医学書院）							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上、平常点 [20%]、期末試験 [80%] を総合して評価。							
履修のポイント	社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時（授業時間以外）、9号館3階第9研究室							

平成25年度 シラバス

科目名	医療関係法規		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	4学年	曜日	時間
			(時間)	(30時間)				
授業の概要	<p>本講座は、「社会保障制度と生活者の健康」の一分野として位置づけられる「関係法規」に関する講座である。医療に関する法規としては、すでにさまざまなものが存在しているが、毎年さらに多くの法規が誕生し、また改廃されている。医療従事者にとっては、それらの法規に従い、医療を提供する義務を有するものであるから、関係法規への知識は、医療従事者にとって、不可欠な要素である。本講座では、医療、保健衛生、社会福祉などに関連する具体的な法規について学習するだけでなく、患者の人権や医療過誤等に関する現代的問題についても、学習していく予定である。</p>							
学習目的	医療を提供する基本理念、医療提供体制の基礎について、実的に理解する。							
学習目標	医療従事者として知っておくべき基本的ルールや、保健医療の各分野の制度について、基本原則を理解した上で、それと関連づけて具体的なルールを理解する。							
授業計画								
回	主題		授業内容				備考	
第1回	法規の概念		授業の進め方、看護士国家試験におけるこの教科目の位置づけについて説明した後、法規とその種類について、法学の基礎的知識を学習する。そして、衛生法規とは具体的に何を指すのか、それに基づく厚生行政はどのように実施されているかを学習する。					
第2回	医事法(1)		医療を行う人に関する法規のうち、看護業務に関わりの深い医療従事者に関する法規について、その目的と主な規定内容について、学習する。具体的には、保健師助産師看護師法、医師法、看護師人材確保法等を学習する。					
第3回	医事法(2)		主に医療を行う場・環境に関して規定している医療法について、その目的、具体的内容を学習する。特に、医療の目的、医療者の責務、医療機関、医療計画等、重要なことがらを中心に学習する。また、医療に関して規定しているその他の法規(臓器移植法、他)についても学習する。					
第4回	保健衛生法(1)		保健に関する全般的な行政施策・担当組織等を規定している地域保健法と健康増進法について、その目的・主な内容等を学習した後、個別分野の保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、精神保健福祉法について学習する。					
第5回	保健衛生法(2)		保健に関して個別分野ごとに保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、母子保健法・母体保護法、学校保健安全法について、その目的、主な行政施策の内容等を学習する。さらに具体的な保健対策法のうち、近年の大きな課税となっているがん対策基本法、自殺対策基本法等について、学習する。					
第6回	保健衛生法(3)		保健衛生に関する法の中でも、感染症に関する法について学習する。具体的には、感染症予防法・予防接種法・検疫法について、その目的・沿革・とりうる行政施策等について学習する。また、食品に関する法のうち、代表的な食品安全基本法と食品衛生法について、概観する。					
第7回	業務法		業務法規と薬剤等を扱う人に関する法を学習する。医薬品等に関する一般法である薬事法について学習し、さらに薬剤を主に扱う医療専門職に関する薬剤師法を学習する。また、さらに取り扱いに注意すべき薬剤・毒物等に関する法令を取り上げ、医療従事者の役割と規制内容について学習する。					
第8回	社会保険法(1)		前期の「社会保障論」の授業で学習した「医療保障」「所得保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。医療保険に関するいくつかの法規と年金に関する法規等を中心に学習する。					
第9回	社会保険法(2)		前期の「社会保障論」の授業で学習した「介護保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。介護保険に関する規定を中心に学習する。					
第10回	福祉法		前期の「社会保障論」の授業で学習した「公的扶助」「社会福祉の分野とサービス」について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。分野ごとに学習したことがらを法規別に学習していく。					
第11回	労働法		労働者に関する法規である労働法のうち、働く人たちの健康を守る立場である医療従事者として知っておく必要がある法令の内容について学習する。労働基準法、労働安全衛生法に加えて、特に働く女性の保護を規定している男女雇用機会均等法、育児休業・介護休業法について学習する。					
第12回	環境衛生法 環境法		日常生活を取り巻く環境に関する法令について、特に水とゴミに関する法令を中心に学習する。さらに環境保全に関する法令について、環境基本法をはじめ、個別の公害防止法、さらには環境に関する主な条約についても学習する。					
第13回	患者・高齢者の人権保障 社会基盤整備等		患者や高齢者の権利を守るための各種制度について学習する。生命や健康に関する権利の基礎となる自己決定権を学習した後、権利擁護の具体的施策である成年後見制度や地域福祉権利擁護事業、各虐待防止法等について学習する。また、少子・高齢化対策に関する法、情報保護に関する法についても学習する。					
第14回	医療保健福祉行政課題への対策		近年の医療保健福祉行政に関する課題への行政対応について、学習する。具体的には、難病対策、少子化対策、高齢化対策、生活習慣病対策のための具体的な施策・計画について学習する。					
第15回	全体のまとめ		これまで学習したことがらについて、課題演習を行って、理解度を確認し、不足している部分について、補足説明をする。					
教科書	『系統看護学講座専門基礎10 社会保障制度と生活者の健康 [4] 看護関係法令』 森山幹夫・小島喜夫							
参考書	『看護六法(平成23年版)』看護行政研究会【編】(新日本法規出版) 『別冊ジュリスト・医療過誤判例百選(第2版)』 唄孝一(有斐閣)							
成績評価	単位認定 60 点以上 平常点 [20%] 授業内テスト [80%] を総合して評価する。							
履修のポイント	毎回必ずチェックテストを実施するので、到達度を各自確認すること。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室							

平成25年度 シラバス

科目名	国際保健論		担当者	芝山江美子、李孟蓉	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位 (時間)	1単位 30時間	学年	4年	曜日 時限	
授業の概要	世界の保健医療問題を概説し、その解決のために世界中が取り組んでいる方法を紹介する。							
学習目的	世界の保健医療問題とその解決に向けた国際協力の現状と展望を理解する。国際保健医療協力の専門家に必要な知識・技術・その取得方法を理解する。							
学習目標	1. 途上国の現状を知る。2. 世界の健康問題を理解する。2. 世界の健康問題を解決するための動きを知る。3. 問題解決手法を知る。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回 10/16	国際保健概論	国際保健と国際保健上の問題を解決する手段である国際協力について概要を知る					芝山 江美子	
第2回 10/16	米国の医療保険	米国の医療保健の現状と歴史、日本の医療保健との比較					芝山 緑	
第3回 10/23	国際協力の現状	国際協力及び保健医療分野の国際機関、NGOについて知る					李 孟蓉	
第4回 10/30	日本の国際保健医療協力	日本の政府機関、NGOが行っている国際協力について知る					芝山 江美子	
第5回 10/30	母子保健に関する問題	途上国の妊産婦死亡や乳幼児死亡の現状とそれらもたらす要因について考える					芝山 江美子	
第6回 11/6	途上国の現状 1	インドネシアにおける保健医療の現状と課題					李 孟蓉	
第7回 11/6	途上国の現状 2	ベトナムにおける保健医療の現状と課題					李 孟蓉	
第8回 11/13	母子健康手帳に関する協力	インドネシアでの実際の協力活動に関する話を聞き、母子保健上の問題の解決策について考える					芝山 江美子	
第9回 11/13	途上国の現状 3	ネパールにおける保健医療の現状と課題					芝山 江美子	
第10回 11/20	途上国の現状 4	中国における保健医療の現状と課題					李 孟蓉	
第11回 11/20	在日外国人	在日外国人の保健医療問題とチーム医療					李 孟蓉	
第12回 11/27	国際貢献のためのナースの海外留学	保健医療分野でのグローバル人材となるための海外留学の知識					芝山 緑	
第13回 11/27	感染症対策	途上国だけでなく先進国でも大きな問題となっている再興感染症、新興感染症とその対策について学ぶ					芝山 江美子	
第14回 12/4	災害	世界中で頻発する災害および災害により生じる難民や避難民への対策について学ぶ					芝山 江美子	
第15回 12/4	まとめ	まとめ					芝山 江美子	
教科書	国際保健医療論・国際看護論、ネパール王国・インドネシア国地域保健活動、Filedwork for elderly people in Bunaken Island, North Sulawesi, Indonesia							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上							
履修のポイント	国際社会への関心を常にもって、新聞やニュースを通して世界情勢を把握し授業に参加すること							
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	教育支援技術論		担当者	林圭子・阿久澤智恵子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	健康者に対しては、疾病を予防し健康の保持増進のための正しい知識を普及し、自らの健康を自ら守るというセルフケアの必要性を高めるための「健康教育」の方法を学ぶ。また、健康障害者には、早期治療、疾病の理解・受容、障害からの回復に向けての生活指導やセルフケアの促進、社会参加が容易になるような「患者教育」の方法を学ぶ。							
学習目的	看護における教育的関わりについて理解し、さまざまな健康レベルにある対象者が健康に対する望ましい考えや行動を獲得できるよう側面から支援する方法について学ぶ。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における教育的関わりの必要性を理解する。</li> <li>2. 各健康レベルに応じた教育・指導の違いを理解する。</li> <li>3. 教育支援のプロセスを理解する。</li> <li>4. 行動変容をうながす教育支援の具体的方法を考える。</li> <li>5. 事例に基づき、対象者に必要な教育支援プランを立案し発表する。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護における教育的関わり	看護における教育・指導とは					林(圭)	
第2回	健康レベルに応じた教育支援	健康に生きることを支える教育・指導					林(圭)	
第3回	教育支援技術のプロセス	アセスメント・計画・教育・評価					林(圭)	
第4回	教育支援における理論の活用	行動変容をうながす保健指導・患者指導					林(圭)	
第5回	教育支援の必要な事例の展開①	看護診断：非効果的治療計画管理の事例(グループワーク)					林(圭)・阿久澤	
第6回	教育支援の必要な事例の展開②	看護診断：ノンコンプライアンスの事例(グループワーク)					林(圭)・阿久澤	
第7回	事例展開の発表①	非効果的治療計画管理の事例展開発表					林(圭)・阿久澤	
第8回	事例展開の発表②	ノンコンプライアンスの事例展開発表					林(圭)・阿久澤	
第9回	/							
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 第15版 医学書院							
参考書	坂野雄二・前田基成編著：セルフ・エフィカシーの臨床心理学、北大路書房、							
成績評価	単位認定 60 点以上 グループワークによる発表・提出物50%、発表の態度・参加度10%、最終レポート40%							
履修のポイント	理論を用いて事例展開し、看護における教育支援の役割と方法を考える							
オフィス・アワー								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	ヘルスカウンセリング		<b>担当者</b>	齊藤敦子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門科目	選択	<b>単位</b>	2単位	<b>学年</b>	4学年	<b>曜日</b>	
	教職に関する科目	必修	<b>(時間)</b>	(30時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	健康に関する悩みや問題を抱えている人の心理について理解を深めるとともに、カウンセリングの基本的な理論と技法を学び、実際に援助を必要としている人に対して健康増進を目的とした援助に関われるようにする。							
<b>学習目的</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念について理解を深め、健康上の問題に直面している患者の心理状態を理解する。</li> <li>2. 患者の健康上の問題に関する原因や治療方針を理解し、カウンセリングの理論に基づいて援助の方法を学習する。</li> <li>3. 実際に患者が必要としている援助が提供できるように、効果的な関わり方について理解を深める。</li> </ol>							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の成長発達段階を理解した上で、個人的な背景に基づいた健康の定義を考える。</li> <li>2. 病気に直面している人の身体的・心理的・社会的な問題を総合的に理解できるようにする。</li> <li>3. 患者の抱えている問題の改善を目指して、カウンセリング理論や技法を活用する。</li> <li>4. 疾患について適切な援助方法を選択し、健康増進・疾病予防などの具体的な関わり方を考察する。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	成長発達段階と健康観	人間の成長発達段階と健康のあり方						
第2回	ヘルスカウンセリングとは	カウンセリングの役割：健康教育に伴う健康の増進及び予防など						
第3回	人の心理とそれに伴う問題点	不適応状態によって生じるさまざまな身体的・心理的な問題						
第4回	心理的な危機状態とその行動	危機状態に直面した際の心理的变化とそれに伴う行動						
第5回	マイクロスキル・モデル	基本的な関わり方について：患者との関係づくり						
第6回	カウンセリング技法について	傾聴・要約技法・質問技法など						
第7回	カウンセラーに求められる資質	自己成長及び自己管理、倫理に関する原則など						
第8回	カウンセリング理論 (1)	クライアント中心療法						
第9回	自己理解・問題解決の対策(1)	クライアント中心療法に基づいた問題解決へのアプローチ						
第10回	カウンセリング理論 (2)	行動療法他						
第11回	自己理解・問題解決の対策(2)	行動療法に基づいた問題解決へのアプローチ					テスト (1～10回)	
第12回	循環器疾患患者へのかかわり	疾病に基づいたアプローチ・プラン (1)						
第13回	症例検討 (1)	健康促進及び健康教育・予防に関する対策案について検討する						
第14回	呼吸器疾患患者へのかかわり	疾病に基づいたアプローチ・プラン (2)						
第15回	症例検討 (2)	健康促進及び健康教育・予防に関する対策案について検討する					課題レポート提出	
<b>教科書</b>	クラス内で配付する。							
<b>参考書</b>	必要に応じて紹介する。							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 小テスト40点、レポート60点とする。							
<b>履修のポイント</b>	患者の疾病を理解し患者の気持を受容した上で、効果的な援助が実践できるように学んでもらいたい。							
<b>オフィス・アワー</b>	月曜日・火曜日・金曜日（講義及び会議の時間を除く）							

## 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	家族看護論		<b>担当者</b>	鈴木裕子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	4学年	<b>曜日</b>	火曜
			<b>(時間)</b>	(15時間)			<b>時限</b>	3限
<b>授業の概要</b>	看護の対象は個人・家族・社会である。家族単位で対象をとらえ、家族を支援していくことは重要な課題である。家族支援について、看護学や心理学の知見から、支援方法を考えていく。							
<b>学習目的</b>	家族の発達、家族関係などの基礎理論や支援方法を学び、家族の支援を自ら考え、実践に生かす。							
<b>学習目標</b>	家族に関する理解を深め、様々な角度から家族を理解していく。また、家族のアセスメントや家族支援の方法の知識と理解を深め、家族支援を実践していけるよう、事例を通しての理解を深めていく。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	家族看護論を学ぶために	家族看護学の現状						
第2回	家族看護の基礎理論	家族看護の理論と方法						
第3回	家族看護の基礎理論	家族看護の理論と方法						
第4回	家族看護の実際	家族支援の方法						
第5回	家族看護の事例 1	家族看護事例検討と討議 1						
第6回	家族看護の事例 2	家族看護事例検討と討議 2						
第7回	家族看護の事例 3	家族看護事例検討と討議 3						
第8回	総括	まとめと展望						
<b>教科書</b>	なし							
<b>参考書</b>	鈴木和子 家族看護学：理論と実践 日本家族看護協会出版会 2006							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験70%、リアクションペーパー20%、授業態度10%							
<b>履修のポイント</b>	自分の家族や実習で出会った家族など身近なところから、また事例を通して実践的に学びを深める。							
<b>オフィス・アワー</b>	火曜日/木曜日 4限							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	母性看護学実習		<b>担当者</b>	馬橋和恵	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	2	<b>学年</b>	3年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	90時間			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	ライフサイクルの中の周産期にある女性とその家族を中心とした対象を理解し、正常で健康な妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期を送るために必要な看護援助を、体験を通して学習する。さらに生命誕生の場面や対象との関わりを通して、人の生命の尊さ、母子、親子、父子、パートナーシップ、家族の関係について考えるきっかけとする。							
<b>学習目的</b>	母性看護の対象へ寄り添い、看護援助や看護過程の展開を通して母性看護の実際を学ぶ。いのちの誕生場面や誕生の空間において、自分と相手の”いのち”を感じあうことができる。							
<b>学習目標</b>	1) 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の対象について、生理的、心理的、社会的特徴を捉え、その理解ができる。 2) 分娩見学、または分娩後早期の褥婦や早期新生児との関わりを通して対象の思いを共感し、対象のスピリチュアルな側面について共に感じることができる。 3) 妊産褥婦、新生児に必要な看護を見学し、体験を通して学ぶことができる。 4) 夫、家族も含め、対象と家族の退院後をイメージした入院中の援助を考えることができる。 5) 産褥期にある対象が自らのより健康な状態を目指し、セルフケアができる看護を展開することができる。 6) 妊産褥婦・新生児の援助を通して、親と子の関係、生命の誕生について、自らの思いを表現できる。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回		実習要項参照						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	森恵美他 母性看護学概論 医学書院 (2012)、森恵美他 母性看護学各論 医学書院 (2012)							
<b>参考書</b>	マタニティ診断ガイドブック 日本助産診断・実践研究会 医学書院、太田操 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社 など 図書館などで多くの母性関連の本がありますので、実習前に借りて学習しましょう							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 実習評価表に沿って評価。実習中の対象は受け持ちの方だけではなく、自分やグループメンバーや周囲の人も入ります。看護者として、グループメンバーとしての建設的で協調性ある態度を求め、重視します。							
<b>履修のポイント</b>	教員は学生の学習の味方であり、実習中の身体と心を支える存在です。事前または実習中に心配なことがあれば相談してください。母性看護を実践する場で多くの感動を一緒に体験しましょう。(良い体験をするには事前の学習は勿論大切です)							
<b>オフィス・アワー</b>	実習、講義、会議、研究活動などで不在のとき以外は、学生さんといつでも話せるようにお待ちしています。面談予約して下さい。面談は必ずです。							

## 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	小児看護学実習		<b>担当者</b>	内山かおる	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	2単位	<b>学年</b>	3学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(90時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	幼稚園実習により子どもの発達過程とそこに影響を及ぼす要因を思考しながら健康状態にある子どもを知る。また、特別支援学校の見学実習で学齢期の入院における継続した学習の重要性を学び、NICUの見学実習や小児科外来の実習を通して継続看護の重要性を思考する。更に、入院する子どもを受け持ち疾病や障害によって起こりうる健康問題や発達を阻害する因子をアセスメントし、看護問題の抽出・計画・実践する。							
<b>学習目的</b>	様々な発達段階にある子どもとその家族の特徴を理解し、健康上の問題をもつ子どもとその家族に必要な看護援助について学ぶ。							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どものとその家族に積極的に関わり、コミュニケーションが図れる。</li> <li>2. 子どもの成長・発達を理解し、健康問題を下記決するために必要な看護を実践できる。</li> <li>3. 子どもの安全について成長発達側面から考え、環境を整えることができる。</li> <li>4. 子どもと家族を尊重した看護を実践することができる。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	幼稚園実習	年少～年長のクラスに分かれて実習を行い、健康な状態にある子どもと各発達段階の特性と集団生活の影響について思考する。						
第2回	特別支援学校実習	特別支援学校の見学実習により、特別支援学校の設置意義とがる冷氣にある子どもの継続した学習の重要性を学ぶ。						
第3回	小児科外来実習	小児科外来における実習を通して、小児科外来の特性と看護師の役割及び継続看護の重要性を学ぶ。						
第4回	NICU実習	NICU実習でハイリスク児の看護実践を見学し、ハイリスク児の生涯発達について思考する。						
第5回	小児病棟実習	疾患や障害をもつ子どもを受け持ち、健康上の問題と成長発達上の問題に着目し、看護過程を展開する						
第6回	学内実習	オリエンテーション・看護技術の復習・実習のまとめなどを行う。						
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	「小児臨床看護各論 小児看護学2」医学書院、「写真でわかる小児看護技術」インターメディカ							
<b>参考書</b>	「こどものフィジカルアセスメント」金原出版、「こどもの病気の地図帳」講談社							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上							
<b>履修のポイント</b>	小児の実習に向けて日常生活の中で子ども用品や子ども番組などに関心を持ち、子どもを観察してみましょう。							
<b>オフィス・アワー</b>								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	成人看護学実習 I (慢性疾患・がん看護実習)		<b>担当者</b>	佐藤栄子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	3単位	<b>学年</b>	3学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	135時間			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	慢性疾患やがんの疾患を持つ成人期の患者1名を基本的に受け持ち、成人期の特性や個別性を考慮しながら健康問題をアセスメントし、それに基づいて回復を促進し、影響の拡大を防ぐ看護援助を計画、実施する。さらに長期的視野にたった継続的な看護の必要性について考える。							
<b>学習目的</b>	成人期の慢性疾患やがんの患者が抱える健康問題を明らかにし、その問題解決に向けて、対象のニーズに合った看護援助が出来るための基本的な能力を養う。							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の特性や個別性、健康問題の性質を考慮して看護過程が展開できる。</li> <li>2. 回復経過の違いにより健康問題の特徴を踏まえた看護援助ができる。</li> <li>3. 慢性的な疾患や障害をもった患者に対する、継続的な援助の必要性と方法が理解できる。</li> <li>4. 医療チーム内における看護職の役割を理解し、看護学生として責任ある行動をとることができる。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回		成人看護学実習 I 要項参照のこと						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	特に指定しない							
<b>参考書</b>	随時紹介する							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 事前学習、実習内容、記録物、提出物などを総合的に評価する。							
<b>履修のポイント</b>	既に学んだ知識や技術を、実際に活用することにより、看護に必要な基本的能力を高めて欲しいと想います。積極的に学習することを期待しています。							
<b>オフィス・アワー</b>	事前にメールでご連絡下さい。E-mail:sato-e@kiryu-u.ac.jp							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	成人看護学実習Ⅱ（周手術期）		<b>担当者</b>	林かおり・粕谷恵美子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	3単位	<b>学年</b>	3学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(135時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	1. 外科領域の病棟・手術室・ICUにて実習を行う。 2. 周手術期にある対象を受け持ち、各段階にあった看護過程を展開し実施する。							
<b>学習目的</b>	1. 周手術期にある対象の身体的及び心理的特徴をとらえ、状況にあった看護過程を展開できるように学ぶ。 2. 回復期にある対象が社会復帰をするためのリハビリテーション及び生活を調整するための援助について学ぶ。							
<b>学習目標</b>	1. 周手術期の対象に対して、術前・術中・術後の看護過程の展開を行い、対象者にあった援助を実施することができる。 2. 手術室、ICUにおける看護について理解することができる。 3. 周手術期にある対象をもつ家族の心理状況、役割及び責任について理解することができる。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	}							
第2回								
第3回								
第4回								
第5回								
第6回		詳細については、成人看護学実習Ⅱ（周手術期看護）実習要項参照						
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>								
<b>参考書</b>	「周手術期看護論」：ヌーベルヒロカワ、「周手術期看護 術中/術後の生体反応と急性期看護」：医歯薬出版株式会社、各種疾病に関する看護の書							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 実習目標の達成度、実習記録、事前学習の内容等によって総合的に評価をする。							
<b>履修のポイント</b>	既存学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。							
<b>オフィス・アワー</b>								

平成25年度 シラバス

科目名	精神看護学実習		担当者	田邊要補	学科	看護学科	開講期	
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(90時間)			時限	
授業の概要	1. 精神科病院と社会復帰施設で2週間の実習を行う。 2. 病院実習では1人の対象を受け持ち、全体像を把握し病棟の看護計画に沿って看護を展開する。 3. 社会復帰施設では施設の利用者とともに活動に参加する。							
学習目的	精神に障がいをもつ人を、一人の生活者として捉える視点を養い、その人のセルフケア能力を高める看護の実際を学ぶ。さらに、地域で生活を営む上での必要な援助を理解する。							
学習目標	1. 身体的・心理的・社会的側面から対象を理解することができる。 2. 対象との関わりを通し、コミュニケーションスキルを高めることができる。 3. 対象の個別性を考慮し、援助を実践することができる。 4. 地域精神保健活動の重要性を理解し、チーム医療や看護者の役割を学ぶことができる。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	}							
第2回								
第3回								
第4回								
第5回		詳細については、「精神看護学実習要項」を参照						
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書								
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]							
成績評価	単位認定 60 点以上 実習目標の到達度、実習記録、事前学習、実習態度等によって総合的に評価する。							
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。							
オフィス・アワー								

# 平成25年度 シラバス

科目名	高齢期看護学実習		担当者	藤川君江	学科	看護学科	開講期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日
			(時間)	(90時間)			時限
授業の概要	高齢期にあり、健康障害をもつ一人の患者を受け持つ。患者を身体的・心理的・社会的側面から情報を収集し、高齢期にある患者の健康障害・生活機能障害を多様な個別性に応じた看護過程を展開することができる。						
学習目的	高齢期にある対象の発達課題と特徴、高齢者を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。また健康レベルに応じた自立への支援と、高齢者が人間としての尊厳を保ち、高齢者の生活の質を考慮した看護が提供できる。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢期にある対象の発達課題と特徴、高齢者を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。</li> <li>2. 高齢期にある対象の顕在・潜在する看護問題を身体的・社会的側面からアセスメントする。</li> <li>3. 高齢期にある対象の顕在・潜在する看護問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントする。</li> <li>4. 保健医療福祉における看護の役割・機能を理解する。</li> <li>5. 看護実践を通して看護の意義を理解する。</li> </ol>						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
事前	学内学習	学習ガイダンス・オリエンテーション・事前学習、発達課題				実習要項参照	
第1回	臨地見学実習 長寿センター	地域で在宅療養する高齢者が介護保険を利用してデイサービスを活用する実際を知る。デイサービスの役割、看護師の役割、多職種協働について見学学習する。高齢者の生活機能再獲得 * 課題				介護保険、家族、安全・安楽技術、自立の実際	
第2回	臨地実習 病院	病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集、カンファレンス 個人情報保護条例に基づく誓約、説明と同意（同意書：自己決定支援）				患者の自己決定 個人情報保護	
第3回	臨地実習 病院	対象の健康状態の理解、情報収集、日常生活援助見学・参加 看護問題・問題リスト、優先度、アセスメント				優先度：マズロー欲求階層理論	
第4回	臨地実習 病院	対象の健康状態の理解、看護問題の抽出、日常生活援助見学・参加 関連図発表、アセスメント、カンファレンス				アセスメント、全体像 個別性	
第5回	臨地実習 病院	対象の健康状態の理解、不足情報を補う、看護計画立案					
第6回	臨地実習 病院	看護計画に沿った援助の実施、評価 看護計画発表				個別性、自立 安全・安楽	
第7回	臨地実習 病院	看護計画に沿った援助の実施、評価、修正 看護過程修正・補足カンファレンス				患者の自己決定 教育的支援	
第8回	臨地実習 病院	看護計画に沿った援助の実施、評価、修正 高齢者の尊厳・尊重についてのカンファレンス				高齢者の尊厳	
第9回	臨地実習 病院	看護計画に沿った援助の実施、評価、修正 アクティビティケア実施				アクティビティ実施	
第10回	学内実習	記録の整理と課題レポート作成、実習評価面接					
教科書	特に指定しない						
参考書	随時紹介する						
成績評価	単位認め 60 点以上 事前学習、実習内容、記録物、提出物などを総合的に評価する。						
履修のポイント	高齢者の生きてきた時代背景の理解、コミュニケーション、生活機能、自己決定（尊厳・尊重）支援の実践						
オフィス・アワー	実習最終日に評価面接を実施します。						

# 平成25年度 シラバス

科目名	地域看護体制と看護学機能論		担当者	高橋/鈴木/内田	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
	演習		(時間)	(30時間)				
授業の概要	地域看護学実習の事前学習/演習です。実習グループ単位で実施します。							
学習目的	実習先の市町村について既存資料等から状況を把握し、実際に地区踏査を行い、地域の看護診断をすることで、地域の健康課題を見出す。見出されて健康課題解決の取り組みを理解する。							
学習目標	1) 看護理論の用いて、地域の看護診断について理解できる。2) 地域の健康課題に対応する施策について理解できる 3) 集団的アプローチ(健康教育)の企画、立案、実施ができる。4) 地域看護活動の支援技術の特徴について理解できる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	ガイダンス 地域診断①		地域看護学実習に行くにあたり、事前に学習することを提示。コミュニテアズパートナーモデルによる地域アセスメントについて					
第2回	地域診断②		地域アセスメント(実習地域)			グループワーク		
第3回	地域診断③		地域の健康課題の抽出と分析			"		
第4回	地区踏査		実習地域の把握と踏査の計画			"		
第5回	地域看護活動の集団的アプローチ 健康教育①		健康教育のテーマの決定			"		
第6回	地域看護活動の集団的アプローチ 健康教育②		指導案の作成			"		
第7回	地域看護活動の集団的アプローチ 健康教育③		教材作成			"		
第8回	地域看護活動の集団的アプローチ 健康教育④		教材作成			"		
第10回	地域看護活動の集団的アプローチ 健康教育⑤		中間発表			"		
第11回	地域看護活動の支援技術:家庭訪問/集団健診		保健師の家庭訪問:乳児訪問事例から 乳幼児の集団健診:観察点と保健指導					
第12回	家庭訪問の実際 A		半分づつに分かれてロールプレイをグループは地域の情報収集と整理			グループワーク (課題提出)		
第13回	集団健診の実際 B					グループワーク (課題提出)		
第14回	家庭訪問の実際 B		半分づつに分かれてロールプレイを実施 半分グループは地域の情報収集と整理			グループワーク		
第15回	集団健診の実際 A					"		
教科書	国民衛生の動向 2013/2014 厚生統計協会							
参考書	最新保健学講座 5 公衆衛生看護支援技術 最新保健学講座 2 公衆衛生看護管理論							
成績評価	単位認定 60 点以上 ミニテスト30% レポート30% グループワーク発表40%							
履修のポイント	実習のための重要な演習です。グループで力を合わせて取り組まないと授業時間内で終わらないこともあります。							
オフィス・アワー	月曜日 木曜日							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	地域看護学実習		<b>担当者</b>	高橋/鈴木/内田	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	3	<b>学年</b>	3	<b>曜日</b>	
	実習		<b>(時間)</b>	135			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	公衆衛生看護で学んだことが地域でどのように展開されているのか実際に学習する。またそのための事前演習を行う。保健所、市町村保健センター、事業所等の実習を通して、保健師の実際の活動を知り、その役割を理解する。地域住民に対して健康課題解決と健康増進の支援方法を体験する。							
<b>学習目的</b>	地域の人々の健康な生活を支援するために、保健師の役割について理解する。また、保健師に必要な知識や技術について理解を深め、看護専門職としての態度を養うことを目的とする。							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する個人・家族・集団の健康を守るための地域保健活動の展開方法を学ぶ。</li> <li>2. 主な公衆衛生看護活動における保健師の支援技術の特徴を学ぶ。</li> <li>3. 地域保健活動における関係機関・職種との連携・協働の方法と保健師の役割を学ぶ。</li> <li>4. 専門職として、また組織の一員としての責任と態度を学ぶ。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1週	市町村保健センター、 保健福祉事務所、事業所等における 保健師の役割と実践について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習事前学習</li> <li>・地域診断/地区踏査 家庭訪問、健診のロールプレイ</li> <li>・行政および事業所保健師に同行し各種保健事業に参加する。事後フォローアップのカンファレンスの参加する。</li> <li>・家庭訪問に同行する。</li> <li>・健康教育を実施する。</li> <li>・年間保健計画の立案、実施、評価について説明を受ける。</li> <li>・実習の総括を行う（学習成果の発表</li> <li>・実習報告書の作成・記録物の提出)</li> </ul>					実習オリエンテーション	
第2週								
第3週								
							成果発表会	
<b>教科書</b>								
<b>参考書</b>	国民衛生の動向2012 厚生統計協会 Essentials 地域看護学 木下由美子編著 医歯薬出版(株) 実習市町村からの資料 群馬県保健福祉統計 市町村地図							
<b>成績評価</b>	単位認定	60	点以上	実習への意欲、事前学習、サブノートの活用、記録物、事後報告書等を勘案し総合的に評価する				
<b>履修のポイント</b>	寒い時期なので、体調管理に留意し、欠席しないようにしましょう。							
<b>オフィス・アワー</b>	実習中は、指導担当教員といつでも連絡できようように連絡方法の確認をしておく。							

平成25年度 シラバス

科目名	在宅看護学実習		担当者	木部 内田 高橋		学科	看護学科		開講期	
区分	専門科目	必修	単位	2単位		学年	3学年		曜日	
			(時間)	(90時間)			時限			
授業の概要	在宅看護の特徴は、対象となる人々とその家族の「生活」の場で看護を展開するという点にある。そのため、人々がそれぞれにもつ生き方、生活、健康に対する価値観や主体性を尊重しながら、自立支援や自己決定という視点を持ち、療養生活の質の向上と療養生活の維持が在宅看護の目的となる。在宅看護学実習では、訪問看護ステーションの看護師に同行し、疾病や障害を持ちながら、在宅で生活する人の看護や介護の実際につれ、在宅療養生活をおくる対象者の特徴や支援方法とともに、在宅ケアシステムや社会資源の活用・調整方法について学ぶ。さらに学内実習では在宅療養者の看護事例を展開し検討を行う。									
学習目的	在宅で疾病や障害を持って療養している人とその家族の生活を理解し、在宅看護の目的と機能、看護展開のための基礎的知識・技術を学ぶ。									
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の対象者とその家族の特徴と生活が理解できる。</li> <li>2. 在宅看護の特徴とその意義・目的、役割・機能が理解できる。</li> <li>3. 療養生活を送る対象の健康問題・生活障害をアセスメントし、個別のニーズに応じた援助が立案できる。</li> <li>4. 在宅ケアチームとの連携とチームにおける看護職の役割・機能が理解できる。</li> <li>5. 療養者とその家族の生活を支援する社会保障制度及び社会資源の活用方法が理解できる。</li> <li>6. 看護学生として看護専門職としての自覚を持ち、実習に積極的に取り組むことができる</li> </ol>									
授業計画										
回	主題		授業内容						備考	
第1回										
第2回			実習方法：							
第3回			1. 3年前後期の実習期間にローテーションで行う。							
第4回	訪問看護ステーション		2. 実習施設、実習スケジュール等については、実習開始時期に提示する。							
第5回	在宅関連施設での実習		3. 実習施設は、群馬県内の訪問看護ステーションと在宅療養者が利用する居宅サービス提供施設（デイサービス・通所リハビリテーション施設など）とし、1施設学生2～4名の配置で実習を行う。							
第6回			4. 訪問看護ステーションの看護師と同行し、在宅療養者の看護ケアを行う。居宅支援事業所、デイサービス・通所リハビリテーション施設などを見学する。							
第7回			5. 訪問事例の看護過程を展開（学内事例検討）する。							
第8回			6. 実習施設内で在宅看護カンファレンスを行う。							
第9回			7. 学内においては、「実習オリエンテーション」、既習学習を含めた演習等から基礎的知識と看護技術の確認（事前学習）、学内実習（金曜日）には、実習記録の整理を行う。 実習最終日には「実習のまとめおよび反省会」「評価面接」を行う。							
第10回			8. 学内実習指導は実習初日と各週金曜日に行う。							
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
教科書	「在宅看護学実習要項」「在宅看護学実習の進め方」配布 秋山 正子他著： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 定価 2,520円 (税込)									
参考書	岡崎 美智子著： 根拠がわかる在宅看護技術 メヂカルフレンド社 定価 4,935円 (税込)									
	木下 由美子編著： Essentials在宅看護学 医歯薬出版 定価 2,730円 (税込)									
成績評価	単位認定 60 点以上 実習内容、実習記録、態度、出席を総合的に評価する(実習評価表参照)。									
履修のポイント	欠席による時間数不足、内容不足などに対する再実習はできないため、注意すること。									
オフィス・アワー	10号館1F 高齢期在宅看護学研究室									

平成25年度 シラバス

科目名	学校保健 I		担当者	青柳 千春	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	<p>学校保健の目的と意義、学校保健の変遷と沿革、学校教育における使命と目的を明確にする。安全な環境の下で、心身ともに健康な発育発達を支援する学校保健の領域は、保健管理、保健教育、組織活動によりなる。児童生徒の健康課題の解決を図る中核的役割をもつ養護教諭に対して、学校保健の推進について講義をする。学校における児童生徒等及び職員の健康の保持増進を図るための保健管理・安全管理、および教育活動全体を通して基盤となる健康と体力について保健教育と心身の調和的発達を図る保健計画、計画を実践していく組織活動について実践的に学習する。</p>							
学習目的	<p>学校保健の概要を学び、児童生徒の実態から健康課題を把握し、健康課題の解決や健康の保持増進を図るための学校保健の運営について理解する。</p>							
学習目標	<p>①学校保健の意義と変遷                  ②児童生徒の心身の健康実態と環境アセスメントの理解、発育発達段階を理解する。                  ③発育発達段階、ニーズ、学習指導要領に基づいて保健指導・保健学習の学習指導計画を立て、指導案に基づいて指導ができる。                  ④学校保健計画の試案を考える</p>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	学校保健とは	学校保健の意義及び内容、変遷、学校保健関係職員と保健室						
第2回	児童生徒の心身の発達と健康	発育発達から見た児童生徒の健康課題						
第3回	学校保健計画とその作成	学校保健計画作成の意義と作成手順及び留意事項						
第4回	保健管理と健康診断	健康診断の意義、実施時期と検査項目、健康診断票と保健調査、事後措置、職員の健康診断、就学時の健康診断						
第5回	教育課程と養護教諭	教育課程とは何か、学習指導要領とは何か、学校における健康教育、指導案の書き方、健康教育の評価						
第6回	学校安全管理と安全教育	児童生徒の事故災害の現状 学校安全の考え方 安全管理と安全教育						
第7回	学校保健委員会と校内体制	学校保健委員会の進め方、教職員保健部会、児童生徒保健委員会の組織づくり						
第8回	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションの概念・歴史 ヘルスプロモーションスケール						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	「新・学校保健」杉浦守邦・野村和雄（東山書房）							
参考書	「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題レポート、ミニテスト							
履修のポイント	児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。							
オフィス・アワー	アポイントを取ること。							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	学校保健Ⅱ		<b>担当者</b>	青柳 千春	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門科目	選択	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	4学年	<b>曜日</b>	
	教職科目	(必修)	<b>(時間)</b>	(15時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	学校保健は、児童生徒の健康と安全の基礎を培い生涯の健康増進の基盤を作る目的と意義がある。学校保健Ⅰの理解に立って、保健教育による介入について理論と実践を教育課程の新学習指導要領により学習する。							
<b>学習目的</b>	学校における児童生徒等、教職員の保持増進を図るため、保健管理、安全管理、保健教育、安全教育、組織活動の進め方を校種別発達段階別に合わせて現代的課題を設定してPDCAサイクルについて実践的に解決できるように具体的に試みる。							
<b>学習目標</b>	①児童生徒等の心身の健康実態及び環境アセスメントからの情報を収集して課題を明確にする。 ②現代的な健康課題について取り上げ、学校における保健教育の進め方を具体的に考える。 ③学校感染症への対応を理解する							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	現代的な健康課題とは	現代的な健康課題と学校で子どもたちに身につけさせたい「生きる力」						
第2回	保健管理と定期健康診断	会場準備、役割分担、事前指導、保健調査、健康診断の実施計画						
第3回	児童生徒の健康実態の把握	健康情報の収集方法、学校保健統計、全国保健室利用状況調査、各種統計調査資料、保健調査に基づく実態把握の見方考え方						
第4回	保健管理～学校感染症への対応	学校感染症の種類と平時・発生時・事後の対応						
第5回	保健管理～精神保健	精神保健の意義 ストレスの概念						
第6回	保健教育 ～望ましい生活習慣づくり	望ましい生活習慣づくりのための保健教育の意義と実際を学習する						
第7回	研究授業に向けた教材研究	現代的な健康課題の中から、テーマを一つ取り上げ対象を決めて授業を構想する						
第8回	授業発表と評価	構想した授業を発表しあい、ねらいに沿った展開となっているかを討議する。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	「新・学校保健」杉浦守邦・野村和雄（東山書房）							
<b>参考書</b>	「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 課題意識をもち取り組む積極的態度、指導案、教材、そのほか提出物、グループへの貢献、テスト							
<b>履修のポイント</b>	児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。							
<b>オフィス・アワー</b>	アポイントを取ること。							

## 平成25年度 シラバス

科目名	感染管理		担当者	林 かおり	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	1. 医療施設及び地域における感染管理の重要性と、感染管理を行う看護師の立場と役割について学ぶ。 2. 易感染状態にある患者への援助の方法について学ぶ。 3. 基礎的な医療関連感染予防の方法について学ぶ。 4. 実際の感染管理プログラム、教育に関する事例や文献を通し、看護師の担う役割についての理解を深める。							
学習目的	1. 感染管理を行ううえで、看護師のとるべき立場と役割について理解する。 2. 実際の医療関連感染対策の方法について理解する。							
学習目標	1. 感染管理・感染看護の概念・動向について学ぶことができる。 2. 医療施設及び地域における感染予防の方法について理解することができる。 3. 感染症患者及び易感染患者の看護の方法について理解することができる。 4. 医療者自身の感染予防の方法について学ぶことができる。 5. 医療関連感染サーベイランスについて学ぶことができる。							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	感染管理・感染看護の概念	感染管理・感染看護の役割。感染管理、感染症にまつわる歴史の変遷。感染症に関わる倫理的問題。						
第2回	医療施設における感染症の発生要因・感染対策の基本	感染の成立と予防に関する考え方。医療関連感染の定義。スタンダードプレコーション。						
第3回	医療器具・処置関連感染予防	滅菌操作時の感染予防。						
第4回	ファシリティ・マネジメント	感染性廃棄物の扱い。洗浄・消毒・滅菌。						
第5回	職業感染防止	針刺し・切創・汚染。 医療施設で問題となる流行性感染症。						
第6回	部署別感染対策	様々な医療施設における感染対策（手術室、ICU、NICU、透析室、リハビリ室、レントゲン部門、高齢者介護施設、在宅）。						
第7回	感染症患者の治療と看護①	感染症別感染対策。						
第8回	感染症患者の治療と看護② 医療関連感染サーベイランス	感染症別感染対策。医療関連感染サーベイランスの定義。既存の研究成果、文献より感染管理及び感染看護の動向。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	大野 義一郎 『感染対策マニュアル』医学書院							
参考書	「わかりやすい微生物・感染症」ヌーベルヒロカワ、坂本史衣『基礎から学ぶ医療関連感染対策－標準予防策からサーベイランスまで－』 南江堂							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%							
履修のポイント	主体的に参加すること。							
オフィス・アワー								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	看護行政と管理		<b>担当者</b>	小此木久美子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1	<b>学年</b>	4	<b>曜日</b>	
	講義		<b>(時間)</b>	15			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	国民の健康を守り、看護の質を向上させるために行われている看護行政や看護に関する制度について理解する。また、看護の対象者によりよい看護サービスを提供するとともに、看護職者が意欲的な活動ができるように人的、物的、経済的資源を効率よく運営できる看護管理の重要性や目的・機能・方法を理解する。							
<b>学習目的</b>	看護とはどのような実践であるのかについて、激動する社会情勢やヘルスケアシステムの現状を踏まえ、看護が時代の要請にどのように応え、何をすべきか理解する。公衆衛生看護管理の基本を学ぶ。							
<b>学習目標</b>	1. 看護に関する制度と政策を考える視点を理解する 2. 看護サービスの管理について、実習での学びを通して理解する 3. 医療安全と医療の質保証および健康危機管理について理解する 4. 看護制度、医療制度と行政の実践が理解できる							
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	看護をめぐる制度と政策①	看護サービスと看護職に関する法制度、看護政策と看護職に求められる社会的責務						
第2回	看護をめぐる制度と政策②	看護サービスと経済のしくみ、看護職員人員配置基準と看護サービスの評価						
第3回	看護サービスの管理①	看護管理とは、管理システムと組織						
第4回	看護サービスの管理②	リーダーシップと人的資源の管理 多職種連携のありかた						
第5回	医療安全と医療の質保証	最近の医療事故の状況、ヒューマンエラーとその要因、組織の安全管理体制の整備						
第6回	健康危機時の管理	健康危機管理体制と平常時の活動 予防策 災害発生時の保健活動 災害回復期の保健活動						
第7回	情報の管理	健康関連情報の収集と活用 発信の方法						
第8回	看護行政の実践	地方自治体としての看護行政の実践、看護職員の養成と確保 看護職の行政処分と再教育						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	授業時に資料を配布する。							
<b>参考書</b>	取柄不詳予講座「公衆衛生看護管理論」(メグカルフレンド社) 保健師業務実見(日本看護協会保健師職能委員会)							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 定期試験 60% レポート40%							
<b>履修のポイント</b>	法的なことは難しく感じるかもしれませんが、休まずに出席することが大切です。							
<b>オフィス・アワー</b>	研究室在室時に対応します。							

平成25年度 シラバス

科目名	災害看護論		担当者	加固正子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	自然・人為を問わず、国内・外を問わず、災害は人々の生命と健康を危機に陥れる。人々の生命と健康を守る看護が災害時に果たすべき役割を考えるとともに、災害発生時。急性期～復興期までの段階において必要な看護の理論と技術を教授する。							
学習目的	災害時の看護職の役割を理解し、災害医療や看護の基礎を学ぶ							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義および災害看護の概要を理解する。</li> <li>2. 災害サイクルにおける保健医療ニーズと看護の場に応じた看護を理解する。</li> <li>3. 災害時に必要な援助技術の基礎を習得する。</li> </ol>							
授業計画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	災害看護の概要		歴史、定義、災害の種類、災害サイクル 「VTR視聴：災害と看護ニーズ」25分 「災害とわたし」これまでの体験と今後の学習目標について				講義 VTR 自分の体験を振り返る	
第2回	災害看護の特徴		災害医療の特徴 災害関連法律 災害拠点病院とは				講義	
第3回	災害サイクルと看護活動(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命・救出と災害時トリアージ</li> <li>・災害時救急医療と看護の概要</li> <li>・ライフラインの復旧までの対応と災害活動のロジスティックス</li> </ul>				講義	
第4回	災害サイクルと看護活動(2)		災害発生直後の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地の病院、避難所、または救護所での医療と看護</li> <li>・ボランティアセンターの開設と看護</li> </ul> 災害中長期(復旧・復興期)の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅と巡回看護(アウトリーチ)のポイント</li> </ul>				講義 VTR	
第5回	災害が人々の健康や生活に及ぼす影響		災害の種類と健康問題 活動の場における看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・救護所に備える医療体制と備品</li> <li>・避難所における巡回医療・看護のポイント</li> </ul>				講義	
第6回	災害時の要支援者の把握と援助		子ども、妊産婦、高齢者など 在宅ケアを受けている人々 障がいのある人々				講義	
第7回	災害とこころのケア		災害後のこころのケア 災害による死とグループケア 救援者のストレス対策				講義	
第8回	災害への備え		病院での災害への備え <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割認識、防災マニュアルの活用、定期的シュミレーション等</li> </ul> 地域における災害への備え <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップの活用(要支援者リスト、避難広場、避難所、避難経路等)</li> </ul>				講義 VTR	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	小原真理子：いのちとこころを救う災害看護、学習研究社、2008。（¥1,890）							
参考書	辺見弘監修：新体系看護学全書 看護の統合と実践2 災害看護 第2版、メヂカルフレンド社、2013年（2,205円） 黒田裕子・酒井明子：災害看護〔ナーシング・グラフィカEX⑤〕、中山書店、2011。（¥3,200）							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験（50％）、課題レポート：私が目指す災害看護の課題（50％）							
履修のポイント	災害は思わぬ時にやってくる。看護職者は被災者にも災害医療提供者にもなりうる存在であり、医療者の中でも最も数が多い職種であることを踏まえ、防災から救護、被災地での看護活動までの知識と技術の基礎を学ぶ科目である。							
オフィス・アワー	水曜日16：40～							

平成25年度 シラバス

科目名	小児救急看護論		担当者	加固正子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
	教職に関する科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	小児救急看護の必要性、現状、倫理、救命救急士を含めたチーム医療について概説し、小児のプライマリー・ケアに必要なフィジカル・アセスメント、トリアージ、および応急処置について教授する。							
学習目的	小児救急看護の必要性、現状、倫理、救命救急士を含めたチーム医療について理解し、小児のプライマリー・ケアに必要なフィジカル・アセスメント、トリアージ、および応急処置の基礎について学ぶ。							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児から学童まで小児救急の特徴を知る</li> <li>・小児救急における看護師および養護教諭の役割・知識・技術について説明できる</li> <li>・救急時に行なうトリアージについての基礎知識を習得する</li> <li>・小児の急性症状に対するフィジカルアセスメントと応急処置の基礎的知識と技術を習得する</li> </ul>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	小児救急看護の必要性和現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の小児救急の現状—乳幼児および学童</li> <li>・保護者の望む小児救急体制の充実とは</li> </ul>						
第2回	救急医療システムの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の時間外受診システムの理解</li> <li>・救急車を呼ぶ時の要点</li> <li>・救急時の対応ABC!</li> </ul>						
第3回	乳幼児の主な急性期症状とアセスメント	発熱、下痢と脱水、腹痛、頭部外傷、けいれん、誤嚥、溺水、火傷など						
第4回	学童期の主な急性期症状とアセスメント	アセスメントとトリアージ(頭を強く打った、胸が痛い、背中が痛い、頭が痛い、お腹が痛いなど)						
第5回	小児救急外来トリアージの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来での小児救急トリアージ例(入院にいたる例)</li> <li>1) 発熱およびその他の症状 乳幼児/学童</li> <li>2) 腹痛およびその他の症状 乳幼児/学童</li> </ul>						
第6回	小児救急電話相談および電話トリアージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科外来または救急外来で乳幼児の保護者から急病の電話相談があったら…</li> <li>1) ミルクを飲ませても泣いていて眠らない乳児</li> <li>2) 咳と鼻水があり、食事があまり食べられない幼児</li> </ul>						
第7回	子どもの急病と応急処置(1)	骨折と捻挫(四肢、鎖骨)、鼻出血、日焼け、酸・アルカリによる火傷						
第8回	子どもの急病と応急処置(2)	ショック症状、手足のしびれ<過換気症候群>、頭を強く打った、胸を強く打った、腹部を強く打った						
第9回	<b>課題レポート：</b> あなたが救急で直面するのは、「症状」や「徴候」であって病名ではない。あなたが最も関心ある子どもの「症状」や「徴候」に対するアセスメントのポイント、わかりやすい説明、および応急的対処の方法について、根拠を述べながら子どもの年齢を想定して説明しなさい。ここでは疑われる病気・けがを含む。その場合、年齢、注意すべきその他の症状(随伴症状)も忘れずに記述する。							
第10回	<b>書式：</b> A4サイズ用紙、1枚に1600字程度。図や写真を含む場合、合わせて2枚まで可。 表紙には「タイトル」、科目名、担当教員名、学籍番号、氏名、提出日を記載すること。  提出期限：2013年6月 日(最初の授業日に提示) 提出先：レポート提出ボックス(10号館2階)  <b>終了テスト：</b> 月 日							
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	山本公弘：改訂イラストでわかる応急処置のすべて、東山書房、2010年(¥2,200)							
参考書	田中哲郎：小児救急医療の現状と展望、診断と治療社、2004。(¥3,000) 玉川進(監修)：先生!大変です!救急車を呼びますか?緊急度の判断基準とその対応 第2版、東山書房、2010年(¥1,800)。							
成績評価	単位認定 60点以上 課題レポート40%、終了テスト60% 再試験なし							
履修のポイント	初めて育児をする保護者が強い不安に襲われやすい症状、小中学校での応急処置を取り上げる。学生自身が相談にのったり、支援したりするつもりで学ぶことによって知識や技術を身につけていく科目である。同時に、小児救急受診者が増えている現状とその対策について、どうあるべきか考えながら受講して欲しい。							
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	国際看護論		担当者	加園正子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	国際協力の中で看護分野の協力の重要性について理解する。異なる国、異なる文化の下での看護の現状を知り、在日外国人に対応できるとともに、対外的に国際看護協力活動に必要とされる基本的知識・英語力ならびにコミュニケーション技術・態度を学ぶ。							
学習目的	対象となる国・地域・民族の歴史、文化、政治、経済、社会システムなどを総合的に理解し、人々の健康と看護の向上を目指す視点やそのための看護活動について学ぶ。							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際看護の概念について理解する</li> <li>・国際社会の現状の特徴、国際看護活動に求められている事柄について知る</li> <li>・諸外国の看護教育制度や医療システムについて知る</li> <li>・異文化理解と看護実践例について学ぶ</li> </ul>							
授業計画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	今、なぜ国際看護を学ぶのか 国際看護活動の支援を必要とする対象		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際看護の概念</li> <li>・国際社会の現状と国際看護活動の課題</li> <li>・国際看護活動が扱う範囲</li> <li>・海外における看護活動「国レベルの援助」から「市町村レベルの援助」へ</li> </ul>				講義	
第2回	英米の看護教育の特徴と国際看護の先見性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の普遍性と英米の看護教育の特徴の比較</li> <li>・海外における看護活動例</li> <li>・国際協力の焦点の移行と看護活動</li> <li>・歴史に残る国際看護活動例</li> </ul>				講義	
第3回	国際看護活動の支援を必要とする対象		<ul style="list-style-type: none"> <li>・在日外国人への看護活動</li> <li>・群馬県内の外国人登録者数と保健医療問題</li> <li>・国際看護活動支援を必要としている国々(アフリカの国々を知る)</li> </ul>				講義	
第4回	国際看護活動を推進する人と機関		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際機関のいろいろ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>-国際協力隊とポリオの根絶</li> </ul> </li> <li>・保健医療分野における地域別援助実績例</li> <li>・NGOの国際協力活動例、</li> <li>・ODA政府開発援助とODAの担い手</li> <li>・看護教育関連のプロジェクト</li> </ul>				講義	
第5回	国際看護で必要とされる知識・技術・能力 国際看護活動の展開プロセス		<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化コミュニケーションと異文化適応能力</li> <li>・大規模プロジェクトにおける手法</li> <li>-マダガスカルからの報告</li> </ul>				講義	
第6回	文化的ケア(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化的存在としての人間の理解</li> <li>・文化を考慮した看護</li> <li>・異文化理解と自文化理解</li> <li>・文化を超えた看護</li> </ul>				講義	
第7回	文化的ケア(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>事例1: 宗教や文化による看護ケアの違い</li> <li>事例2: 医療制度の違い外国人旅行者・滞在者への看護</li> </ul>				講義	
第8回	世界のためにわたしができること		<ul style="list-style-type: none"> <li>・MDGsワークショップ</li> <li>-1日100円位で生活する人の割合が高い国々と必要な援助内容</li> <li>・資料の集め方とまとめ方(レポート提出について)</li> </ul>				講義	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	田村やよい(編) : 新体系看護学全書 国際看護学、メヂカルフレンド社、2009. 2, 205円							
参考書	講義の中で適宜紹介							
成績評価	単位認定 60 点以上 終了テスト(60%)、関心をもった国や地域の健康問題についてのレポート(40%)							
履修のポイント	異文化コミュニケーション、国際保健論などの科目と関連させて学習していただきたい。国や文化の異なる人々に対する理解は、国際的な看護活動を行う上で欠かせないので、多様な文化や生活習慣に対して関心を深めていくことが重要である。							
オフィス・アワー	水曜日16:40~							

平成25年度 シラバス

科目名	看護管理システム論		担当者	池田貴子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	月
			(時間)	(15時間)			時限	4
授業の概要	質の高い看護の提供は、ひとりの看護師だけで行われているのではなく、看護職同士や他職種との連携・協働などによって成り立っている。より良い看護が提供されるために必要な人的資源（ヒト）・物的資源（モノ）・財的資源（カネ）の維持・活用などについての看護管理システムを学ぶ。							
学習目的	看護管理の目的、ヘルスケアシステムとしての看護を理解する。 チーム医療における看護職の果たす役割やマネジメントに必要な知識や技術を学ぶ。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理の基本概念を理解する。</li> <li>2. 看護ケアにおけるマネジメントを理解する。</li> <li>3. 看護サービスのマネジメントを学ぶ。</li> <li>4. 看護管理に必要な知識体系とその概要を学ぶ。</li> <li>5. 情報倫理について理解する。</li> <li>6. チーム医療における看護職の役割について考えることができる。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	月日時限	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	4 / 8 (月) 4限	看護管理の目的	看護管理の目的、看護管理プロセス、看護の組織、看護活動を支えるための組織					
第2回	4 / 15 (月) 4限	ケアおよび看護サービスにおけるマネジメント	組織論、看護の提供体制、キャリア開発と継続教育					
第3回	4 / 22 (月) 4限	組織とマネジメント	マネジメントのプロセスと必要な知識と技術					
第4回	4 / 30 (火) 4限	看護管理におけるリーダーシップ	リーダーシップ、フォロワーシップ、アサーティブ行動					
第5回	6 / 24 (月) 4限	チーム医療と看護の役割	他職種との連携と協働					
第6回	7 / 1 (月) 4限	演習	チーム医療における看護職の活動について				グループワーク	
第7回	7 / 22 (月) 4限	発表					10-5教室	
第8回	7 / 22 (月) 5限							
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	上泉和子著者代表:系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 I 看護管理 (第9版), 医学書院, 2011.							
参考書	矢野正子編:新体系看護学全書別巻14 看護管理 看護研究 看護制度, メディカルフレンド社. 井部俊子, 中西睦子監修:看護管理学習テキスト「看護管理概説」第1巻, 日本看護協会出版会. 日本看護歴史学会編:日本の看護120年 歴史をつくるあなたへ, 日本看護協会出版会. 野崎和義, 柳井圭子著:看護のための法学 自律学・主体的な看護をめざして, ミネルヴァ書房. 村島さい子他編:ナーシンググラフィカ⑩基礎看護学看護管理, メディカ出版. 見藤隆子他著:看護職者のための政策過程入門, 日本看護協会出版会. 叶谷由佳, 木村憲洋編:イラスト図解看護のしくみ, 日本実業出版社, 2007.							
成績評価	単位認定 60点以上 筆記試験 50%, 授業および演習態度 10%, 学生評価 20%, レポート 20%							
履修のポイント	看護基礎教育において社会のニーズに対応した新しい領域です。日本の現在そして近い将来の課題を看護学生4年生の経験と思考をもって考えていきましょう。							
オフィス・アワー	ikedata@kiryu-u.ac.jp							

平成25年度 シラバス

科目名	看護セミナー		担当者	加固正子他 看護系教員	学科	看護学科	開講期	通年
区分	専門科目	必修	単位	3単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(135時間)			時限	
授業の概要	<p>学生が関心を持った看護領域における看護実践課題を見出し、課題に対応した臨地実習を計画し、研究的視点で実践する。学習課題に関する疑問や問題を解決する過程を通して、より質の高い看護を提供するために、継続して学習を深める意義を確認する。</p>							
学習目的	<p>これまでの学習をふまえ、1つの看護領域を選択し、対象の持つ問題を改善・解決するために文献を活用した臨地実習を立案し、病院・地域などにおいてその実践を試みる。これらの一連の過程について論文記述の体裁を整えた報告書としてまとめる。</p>							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学習に基づき、看護実践を展開する上での、改善・解決したい課題を明確にする</li> <li>2. その課題解決に有効な文献を検索し、これまでの成果を活用できるよう検討する</li> <li>3. その課題にあった対象を選定し、文献検討結果を活用して看護実践の計画を立案する</li> <li>4. 看護実践の計画に基づき実施する</li> <li>5. 看護実践の結果について考察する</li> <li>6. 看護実践結果を論述する</li> </ol>							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	オリエンテーション	全体説明、各教員からのアピール						
第2回	第2回オリエンテーション 文献検討の方法	文献検討報告書の書き方						
第3回	文献検討の方法	文献検討報告書の提出と課題テーマの絞り方						
第4回	グループ配置 各教員とのゼミ	看護セミナー要項に基づき、選択する領域の看護について指導教員のもとで臨地実習を行う。 実習経過は「看護セミナー報告書」としてまとめ提出する。						
第5回	実践的看護課題の選択							
第6回	実習調整	詳細は「看護セミナー実習要項」を参照						
第7回	実習計画・臨地実習							
～	”							
～	”							
～	”							
～	”							
第42回	”							
第43回	実習のまとめ							
第44回	”	看護セミナー報告書作成						
第45回	”	看護セミナー報告書作成						
教科書	実習中、適宜用いる							
参考書	実習中、適宜用いる							
成績評価	<p>単位認定 60 点以上 単位認定は実習時間の5分の4出席を必要とする。 評価は、実習内容および提出物を総合的に評価する</p>							
履修のポイント	4年間の看護の学びの統合と、1つの看護実践課題について主体的に学習すること。							
オフィス・アワー	初回に、グループ担当教員と調整すること。							

## 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	道徳教育及び特別活動の研究		<b>担当者</b>	田口和人	<b>学科</b>	看護・栄養	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	教職科目	必修	<b>単位 (時間)</b>	1単位 (15時間)	<b>学年</b>	4年次	<b>曜日 時限</b>	
<b>授業の概要</b>	教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解することを第一に行います。その上で、道徳教育と特別活動を一応区分したうえで、それぞれについて「グループ討議」を行います。またビデオ等を見て学校現場についての理解を深めます。							
<b>学習目的</b>	教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解すると同時に、今日子どもたちが置かれた状況を考慮した場合に、どのような道徳教育・特別活動が求められるのかについて考えることを学習の目的とします。							
<b>学習目標</b>	日本の道徳教育は1945年を境とする戦前・戦後では大きく変わりました。それは特別活動にも同様のことがいえます。何がどのように変わったのかについて理解することを一つの目標とします。その上で、今日子どもたちが抱える様々な教育問題を想定しながら、求められる道徳教育・特別活動はどのようなものであるかについて、自分自身で考えることを二つ目の目標とします。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	教育課程における道徳教育／特別活動	道徳教育とは、特別活動とは（教育課程についての説明）。楽曲を聴いて子どもたちの心理を想像する。						
第2回	学校教育について	教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。						
第3回	学習指導要領と道徳教育／特別活動	学習指導要領と道徳教育・特別活動について学習する。また、戦前戦後の道徳教育・特別活動について学習する。						
第4回	学校ってどんなところ？	今日の学校教育の現状について視聴覚教材を用いて学習する。						
第5回	いじめ問題	克服しがたい問題としての子どもたちの周りに存在する「いじめ・いじめ自殺」について視聴覚教材を用いて学習する。						
第6回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議①	テーマを設定してグループごとに討議を行う。						
第7回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議②	グループ討議した内容を整理して、発表する。						
第8回	まとめ	道徳教育と特別活動についてのまとめを行う。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	※適宜、資料を配布します。							
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 試験100%（持ち込み不可）							
<b>履修のポイント</b>								
<b>オフィス・アワー</b>								

平成25年度 シラバス

科目名	教職実践演習（養護教諭）		担当者	青柳千春・占部慎一	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	自由	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>第1回は、教職担当教員によりオリエンテーションを行う。第2回は、養護教育実習を振り返りながら、教師という仕事について考える。3回から4回は子どもの抱える成長・心の問題、5回～6回は子どもの抱える学びに対する問題、7回は対人関係の問題に対する援助・指導の実際をそれぞれ理論・理解・対応（ブレインストーミング・ロールプレイング）・振り返りの順序で行う。第8回～第14回では、養護実習で経験した学校保健活動、学習指導案作りや研究授業の評価やこれまでの学びをすべて活用し、学校現場が抱える健康課題に対して、養護教諭としてどのように解決を図るのかについて協議をしていく。</p> <p>第15回は、履修カルテを用いて教職課程の総合的な確認を行う。</p>							
学習目的	履修カルテにより、個人別の履修状況や教師になるための実践的指導力等を把握しながら、演習を通して受講者が養護教諭になるために必要な能力を培うことを目的とする。また、組織の一員としての自覚や地域社会とのつながりを意識しながら、社会性や人間関係能力を育成する。							
学習目標	<p>①履修カルテにより、履修状況を確認する。                  ②養護教諭になるために必要な能力を、身につける。                  ③学校という組織の一員として自覚するとともに、教師として豊かな感性や人間関係を高める。</p>							
授業計画								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション	教職実践演習の内容とスケジュールの確認。履修カルテの確認				教職担当教員		
第2回	学校教育・教師の仕事	教育実習を踏まえて、教師の仕事について学び、考える。				養護教諭担当教員 及び教職担当教員		
第3回	子どもの抱える成長・心の問題（1）	子ども期、思春期、青年期（前期）の発達と各段階における問題の援助・指導の実際について学び、活用法を検討する。				教職担当教員		
第4回	子どもの抱える成長・心の問題（2）	問題の援助・指導法をブレインストーミングで案出し、ロールプレイにより実践的な対応能力を身につける。				教職担当教員		
第5回	子どもの抱える学びの問題（1）	学習意欲の低下、過剰適応、発達障がい等についての援助・指導について学び、活用法を検討する。				教職担当教員		
第6回	子どもの抱える学びの問題（2）	援助・指導法をブレインストーミングで案出し、ロールプレイにより実践的な対応能力を身につける。				教職担当教員		
第7回	子どもの抱える対人関係の問題	いじめの対応と援助・指導の実際を学び、他教員、カウンセラー、保護者などとの連携的対応を検討する。				教職担当教員		
第8回	学校保健における実践演習	模擬保健指導～養護実習における研究授業の成果と課題を生かした保健指導・保健学習の授業構想（グループ演習）				養護教諭担当教員		
第9回								
第10回		模擬保健指導～指導案の発表と指導法の検討（発表）（グループワーク）				養護教諭担当教員		
第11回								
第12回		事例検討～子どもへの健康相談（事例検討、ロールプレイから考える）				養護教諭担当教員		
第13回		事例検討～保健室での子どもへの対応（救急処置場面、ロールプレイから考える）				養護教諭担当教員		
第14回		目指す養護教諭像（協議 「教師、子ども、保護者が期待する養護教諭の姿とは」）				養護教諭担当教員		
第15回	まとめ	履修カルテを用いて、教職課程の総合的な確認を行う。				養護教諭担当教員 及び教職担当教員		
教科書	プリントをその都度配布する。							
参考書	占部慎一著「子どもたちの逸脱・非行」学文社 「新・学校保健」 東山書房/「養護教諭のための教育実習マニュアル〈第4版〉」尾花・栗田・西川路著 少年写真新聞社							
成績評価	単位認定 60 点以上 小レポート、総括レポートの提出状況、演習・発表内容を総合して評価							
履修のポイント	各自が自分の考えを積極的に発表し、共に学び合う場にしてください。							
オフィス・アワー	アポイントをとってください。							

## 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	養護実習		<b>担当者</b>	青柳 千春	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	
<b>区分</b>	教職科目	必修	<b>単位</b>	4単位	<b>学年</b>	4年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	180時間			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	教育実習生として、これまで大学で学んだ養護教諭の職務に関する知識や技術を具体的な実務を通して体験する。また、児童生徒の実態や課題を把握しどのように学校保健活動へ反映していくのかを理解したり、養護教諭の専門的な立場から児童生徒に対しての適切な指導や助言の在り方等を学んだりする。さらに、学校における教育活動全般について理解するとともに、学校組織の一員としての責任と自覚、専門職としての向上意欲、使命感の醸成を図る。							
<b>学習目的</b>	①大学で学んだ知識・理論・技術について、実践を通して確認する。②児童生徒の実態と学校、地域の現状を知り、学校教育目標、学校保健目標の達成に向けて行われている教育活動を理解する。③養護教諭として必要とされる資質・能力についての学習課題を見出す。							
<b>学習目標</b>	養護実習を通して、①児童生徒理解を深める②保健管理、保健教育、組織活動の在り方を学ぶ③養護教諭と他教職員、保護者や地域等との連携や協働の在り方を学ぶ							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	第1週	情報収集と実習目標に向けた取組						
第2回		・実習計画の細案の打ち合わせ（講義・観察・参加・実習別）						
第3回		・健康診断の準備、実施事後措置等						
第4回		・研究授業までの計画						
第5回								
第6回	第2週	積極的に課題意識をもって実践						
第7回								
第8回	第3・4週	実習の成果を点検						
第9回		・各種の指導や実践の評価をまとめる						
第10回		・得られた成果を確認する						
第11回		・実習をまとめ、大学へ提出する報告書を作成する						
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	「養護教諭のための教育実習マニュアル（第4版）」尾花・栗田・西川路著、少年写真新聞社							
<b>参考書</b>	「学校保健マニュアル」南山堂 「新養護概説（第7版）」采女智津江 少年写真新聞社							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 実習校での評価、実習記録等をもとに大学教職課程委員会と協議し総合判定とする。再実習は実施し							
<b>履修のポイント</b>	実習校での積極的な体験及び反省評価を繰り返すことで成果が得られる。そのための事前準備が重要になる。							
<b>オフィス・アワー</b>	実習中の相談については、主に電話又はメール、必要に応じて面談する。実習校での問題、トラブルは必ず報告・相談・連絡を早期にとること。							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	教育実習事前事後指導		<b>担当者</b>	青柳 千春 鈴木 裕子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	教職科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	4学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(30時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	教育実習（養護実習）の意義と学校現場における学び方、教育実習生の責任と立場を理解する。また習得した養護教諭の職務に関する知識や技術を実践できるようにする。実習期間中の観察の視点や記録の仕方を理解し、児童生徒の実態、学校保健活動の在り方、養護教諭の対応等の実際を学ぶ。さらに、学校における教育活動全般について理解するとともに、学校組織の一員としての責任を自覚し、専門職として児童生徒・保護者・教職員の期待や信頼にこたえる判断と態度、行動の在り方を学ぶ。							
<b>学習目的</b>	①児童生徒等の実態、学校・地域の現状を知り、教育目標、学校保健目標の達成のために、どのような保健活動が行われているか、大学での学びを確認する。②学校教育計画、校務分掌、学校運営、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と保健管理、保健教育、組織活動の実際を具体的に実習できるようにする。③養護教諭として必要とされる資質・能力の課題を発見する。							
<b>学習目標</b>	①児童生徒等の健康課題の背景要因を考えることができる。②学校教育計画、校務分掌、学校運営、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と学校保健計画及び保健室経営との関連を理解でき、実習校の特色や養護教諭の行う保健管理、保健教育、組織活動の例示ができる。③「児童生徒の養護をつかさどる」活動に対する児童生徒・保護者・教職員のニーズを具体的に表現することができる。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	教育実習・事前指導 オリエンテーション	学び方、授業の概要、学習目的 実習校との事前打ち合わせの仕方、計画の立て方・進め方					4/9(火)－1・青柳	
第2回	保健室経営と 養護教諭の一日の執務	保健室経営の考え方、具体的な一日の執務の流れ、養護教諭観、児童生徒観					4/11(木)－4・青柳	
第3回	定期健康診断（小・中学校）	実技・演習：準備・計画・実施・事後措置・保健指導・評価 記録方法と事後措置					4/16(火)－1・青柳	
第4回	保健教育（保健指導・保健学習）	保健指導・保健学習・指導案の書き方、演習 教材開発と作成、保健だよりの書き方					4/22(月)－5・青柳	
第5回	組織活動	学校における保健組織活動、学校保健委員会の目的と進め方					4/26(金)－2・鈴木	
第6回	学校救急体制および 学校救急処置の演習	確かなアセスメントと救急処置・対応					4/30(火)－1・鈴木	
第7回	養護実習報告会	養護実習の成果と課題について各自6分でプレゼンテーション					7/2(火)－1	
第8回	養護実習の自己評価	養護実習の成果を評価、総括					7/2(火)－2	
<b>教科書</b>	「養護教諭のための教育実習マニュアル〈第4版〉」尾花・栗田・西川路著 少年写真新聞社							
<b>参考書</b>	「学校保健マニュアル」南山堂 「新養護概説〈第7版〉」采女智津江 少年写真新聞社							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 事前・事後指導の学習態度、実習校における評価、実習報告会の成果を総合評価							
<b>履修のポイント</b>	関心・意欲・課題意識をもち、積極的に学び養護実習に臨めるようにする。							
<b>オフィス・アワー</b>	アポイントをとること。							